

[Ⅱ] クロス集計

第12章 宗教への関心の度合いとの相関

調査では毎回回答者の宗教への関心を聞いているので、この回答結果と他のいくつかの質問への回答結果をクロスさせ、それぞれどの程度の相関関係があるのかを見ていく。「宗教への関心の度合い」とのクロス集計の対象としたのは、「宗教に関する意見」、「神仏、霊魂の存在」、「イスラム教への関心意識」、「宗教教育の必要性」、「パワースポット」である。この節はすべて下記の質問の結果とのクロス集計である。

質問内容

あなたは宗教にどの程度関心がありますか。次のうちから選び、さらにそれぞれの質問に答えて下さい。

- 1.現在、信仰をもっている(以下「信仰あり」と表記)
- 2.信仰はもっていないが、宗教に関心がある(以下「関心あり」と表記)
- 3.信仰はもっていないし、宗教にもあまり関心がない(以下「あまり関心なし」と表記)
- 4.信仰はもっていないし、宗教にもまったく関心がない(以下「まったく関心なし」と表記)

a) 宗教に関する意見

①宗教の必要性に関する意見

宗教への関心への回答と次の質問の回答とをクロス集計した。この質問は2001年を除いて11回実施している。

質問内容

次のような意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

「どんなに科学が発達しても、宗教は人間に必要だ。」 []

回答の選択肢の略記号 (以下同じ)

 1.+++ : そう思う	 2.+ : どちらかといえばそう思う
 3.- : どちらかといえばそう思わない	 4.-- : そう思わない
 5.無回答	

以下のグラフは宗教への関心の4つのタイプ（「信仰あり」、「関心あり」、「あまり関心なし」、「まったく関心なし」）を横に並べている。

そして縦に並べたのは年度順の変化であるが、それぞれの円グラフの数値は、宗教の必要性について、それぞれ「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」、「無回答」の割合を示したものである。

宗教への関心の回答と宗教の必要性についての回答がどれほどの相関性をもっていることを視覚的に分かりやすくするために、このようなグラフを作成した。

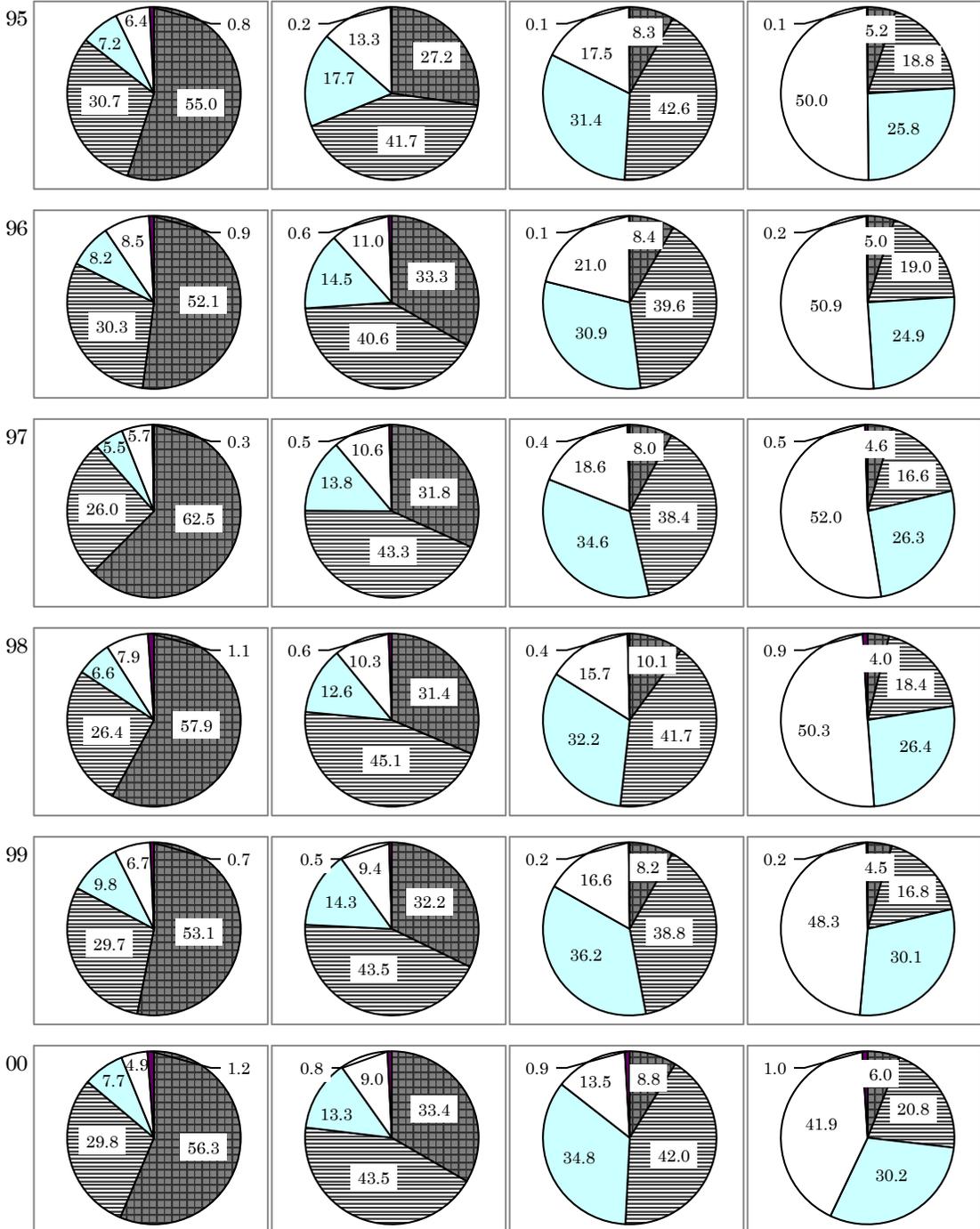
グラフ 12a1

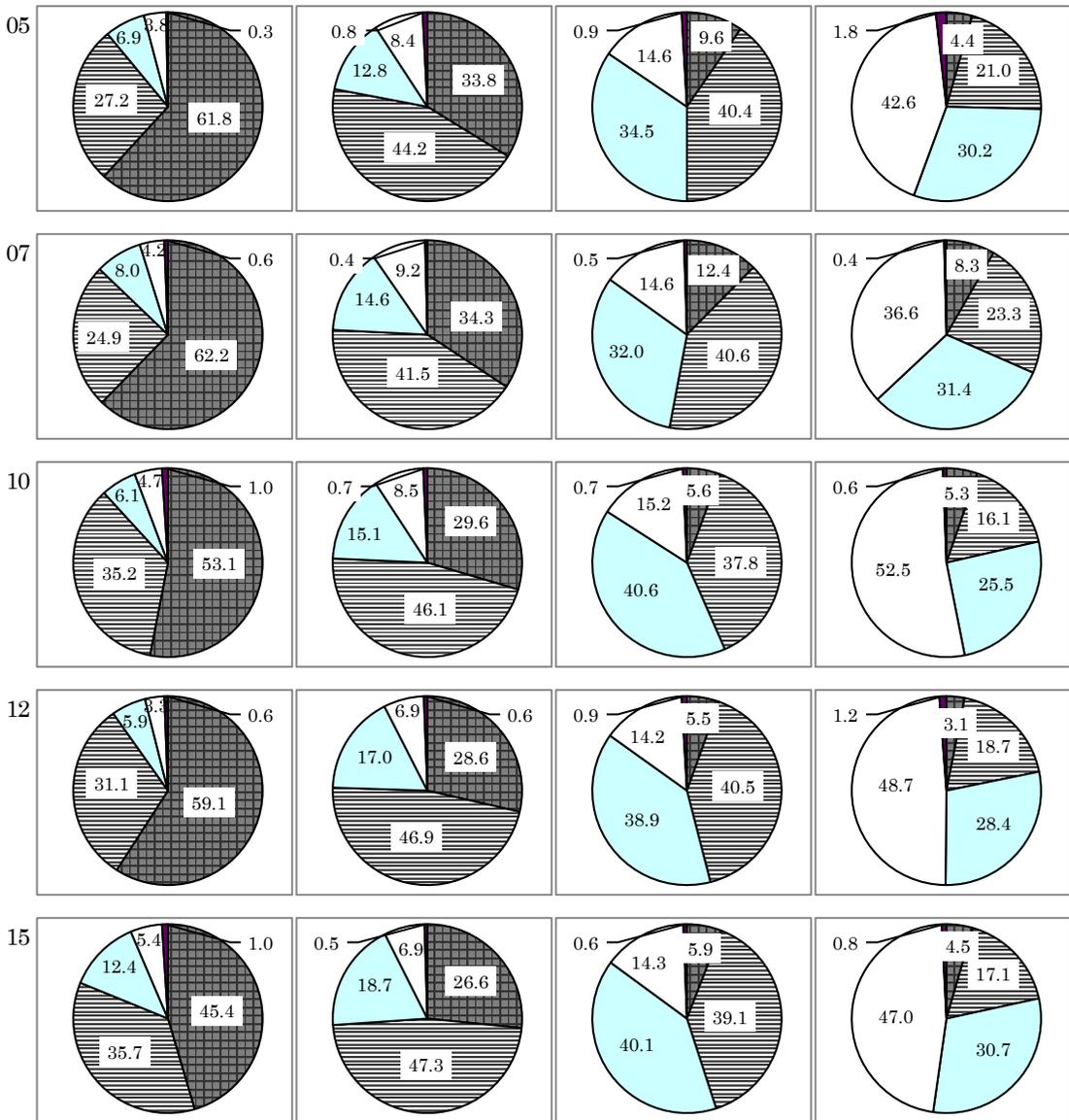
①信仰あり

②関心あり

③あまり関心なし

④まったく関心なし





* 「宗教は人間に必要な」とする割合は、どの年度においても「信仰あり」、「関心あり」、「あまり関心なし」、「まったく関心なし」の順に多い。

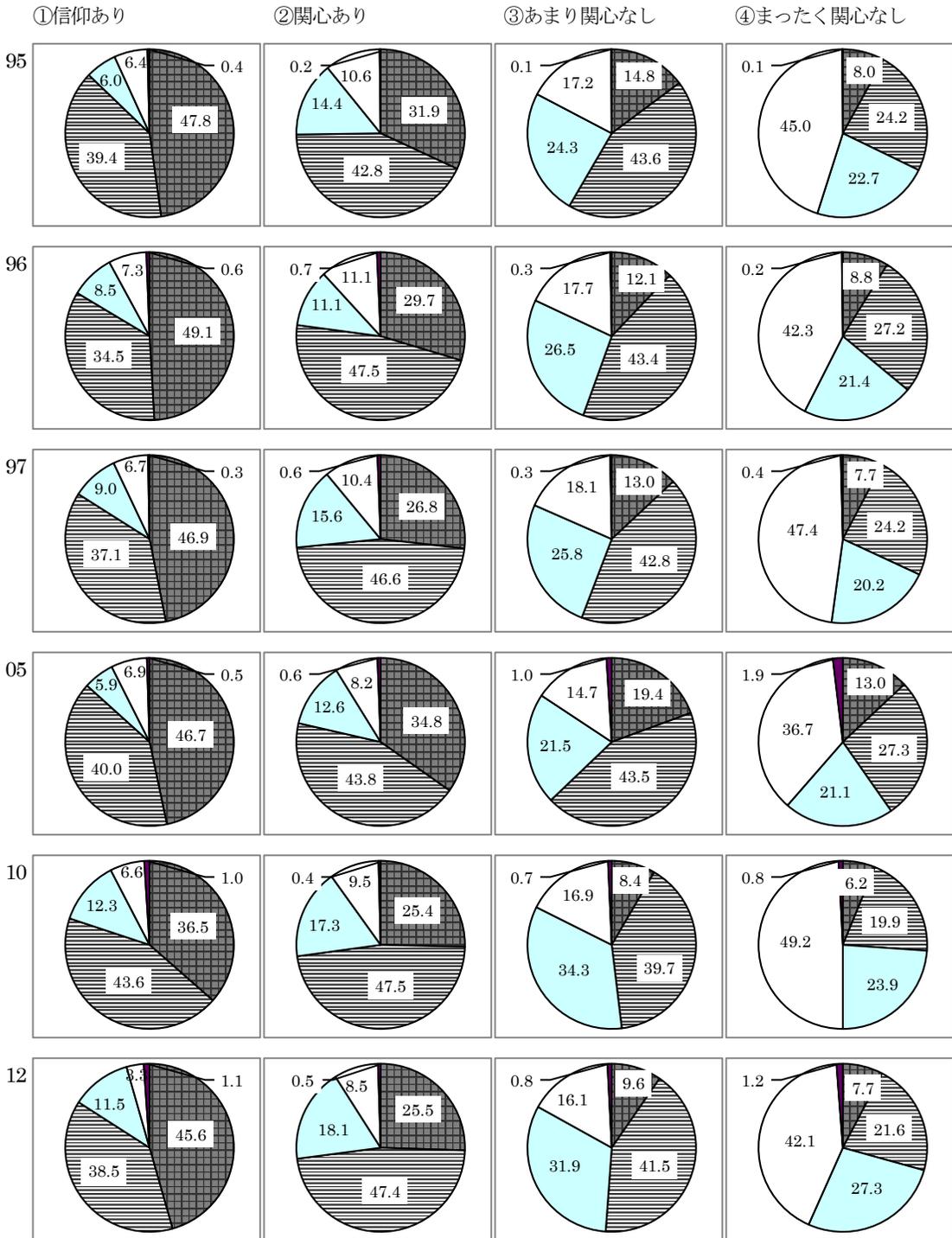
② 宗教は心のよりどころになるかどうかについての意見

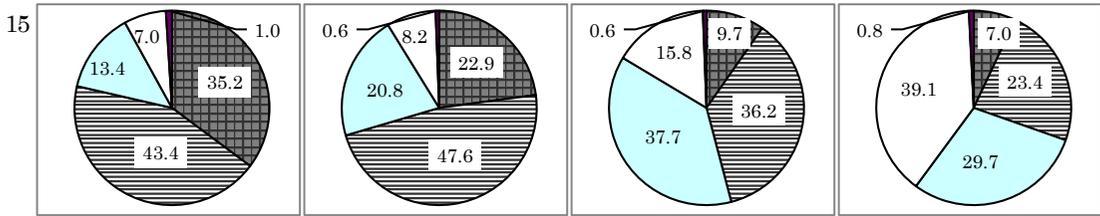
質問内容

次のような意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

「宗教を信じると、心のよりどころができる。」 []

グラフ 12a2





*この問に関しても、「宗教は心のよりどころになる」と回答する割合は、どの年度においても「信仰あり」、「関心あり」、「あまり関心なし」、「まったく関心なし」の順に多い。

③ 宗教はアブナイと思うか

宗教への関心への回答を、宗教はアブナイと思うかという、宗教に対する否定的な評価を含む質問の回答とでクロス集計した。

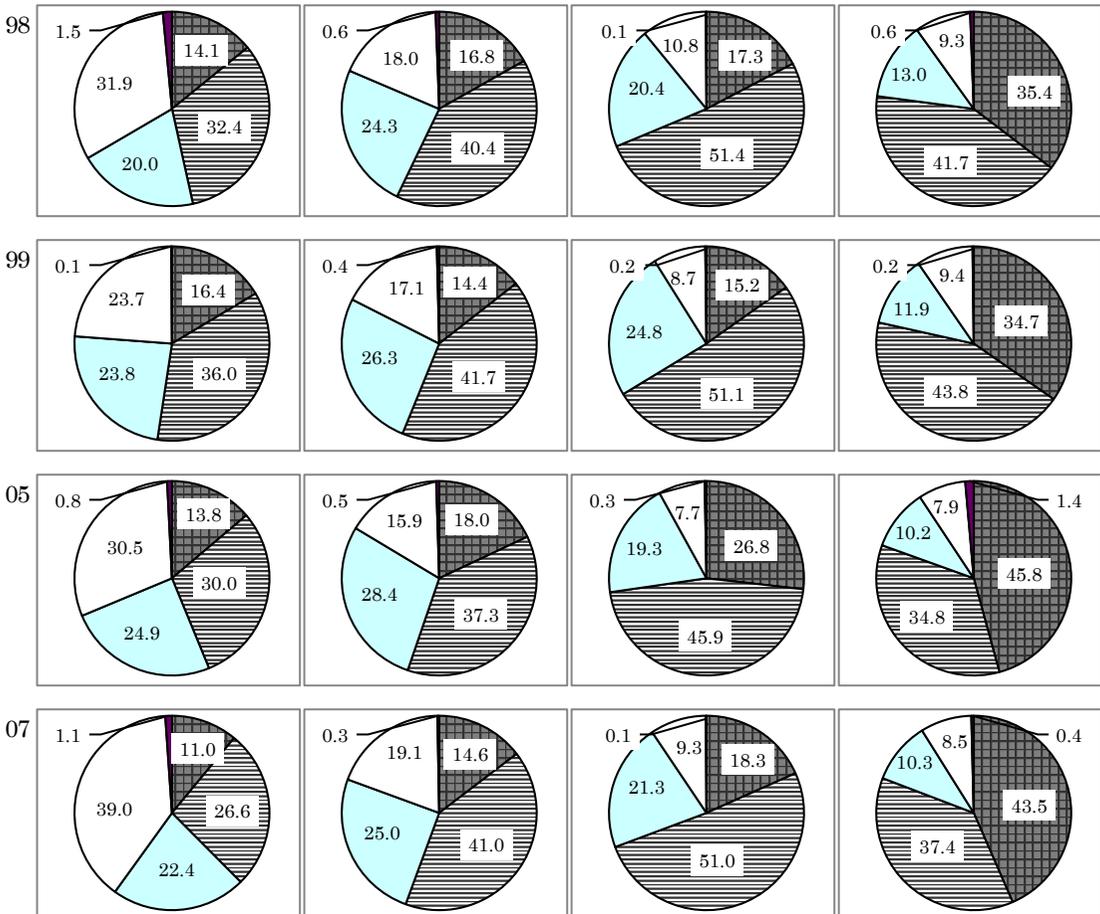
質問内容

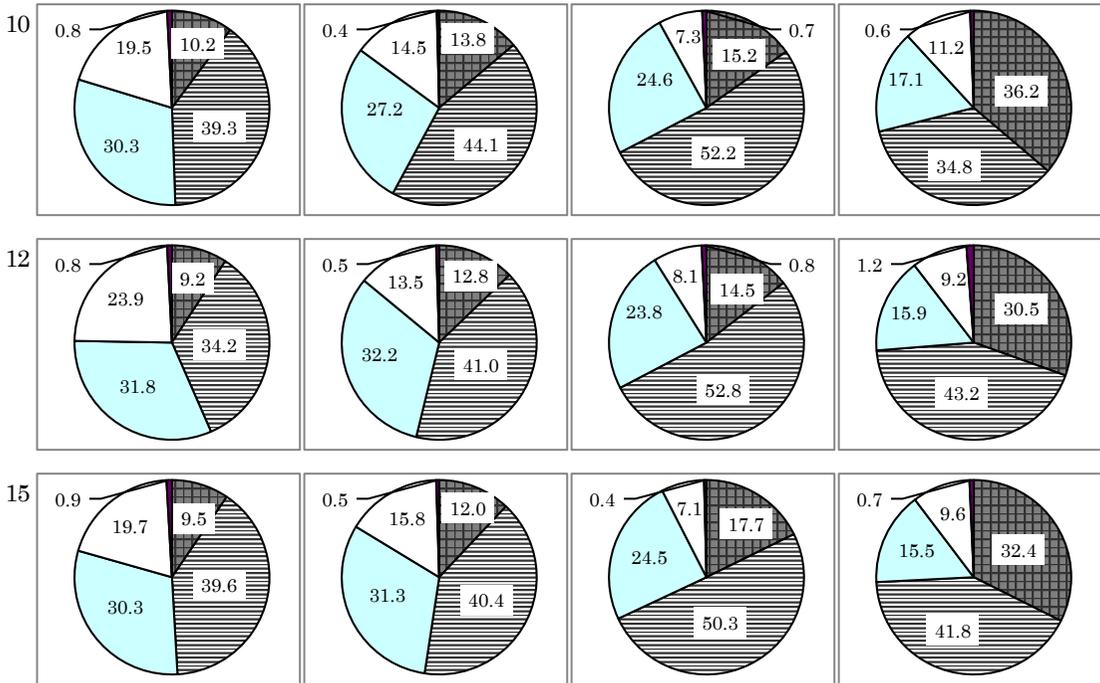
次のような意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

「一般的に宗教は、アブナイというイメージがある」 []

グラフ 12a3

①信仰あり ②関心あり ③あまり関心なし ④まったく関心なし





* 宗教にまったく関心ない人が、宗教はアブナイと思う割合がもっとも高いということだけは共通している。

b) 神仏、靈魂の存在

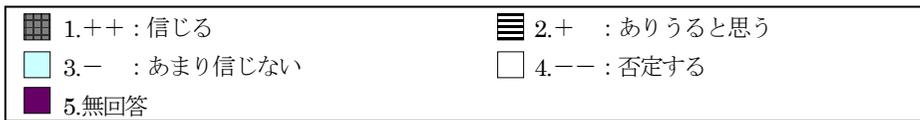
①神の存在

質問内容

神や仏の存在について、あなたはどのように思いますか。「1.信じる 2.ありうと思う 3.あまり信じない 4.否定する」のなかから、番号で答えて下さい。

1.神の存在[] 2.仏の存在[] 3.靈魂の存在[]

回答の選択肢



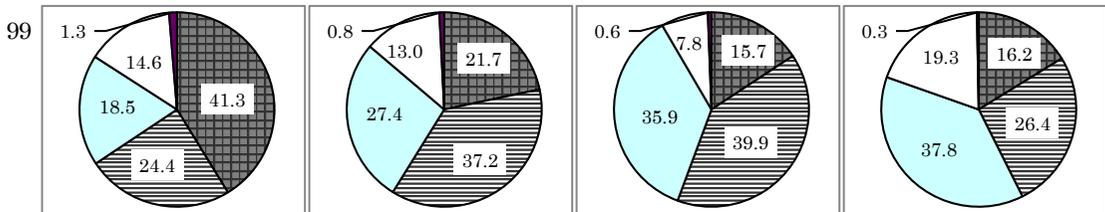
グラフ 12b1

①信仰を持っている

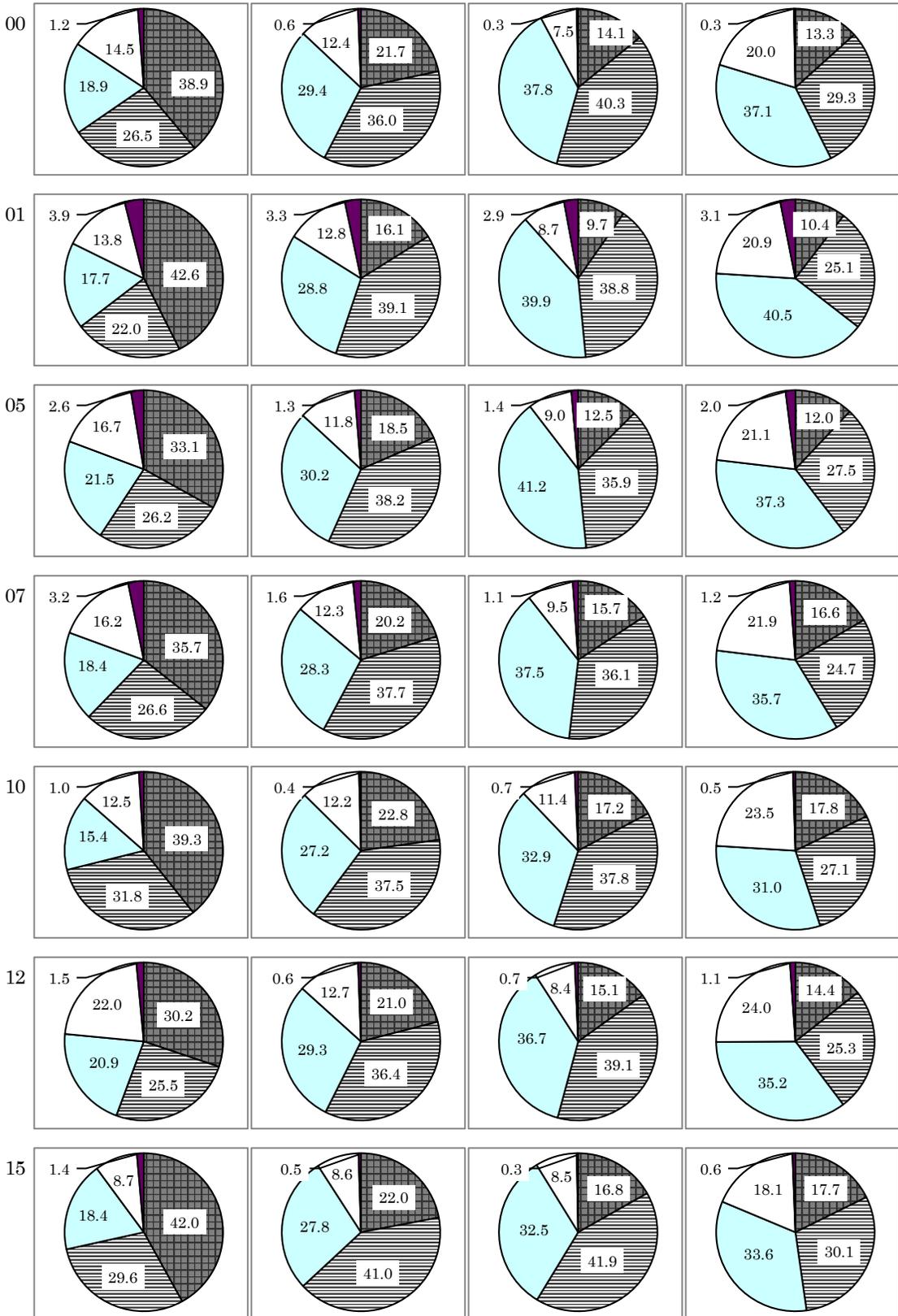
②関心あり

③あまりなし

④全くなし



クロス集計



②仏の存在

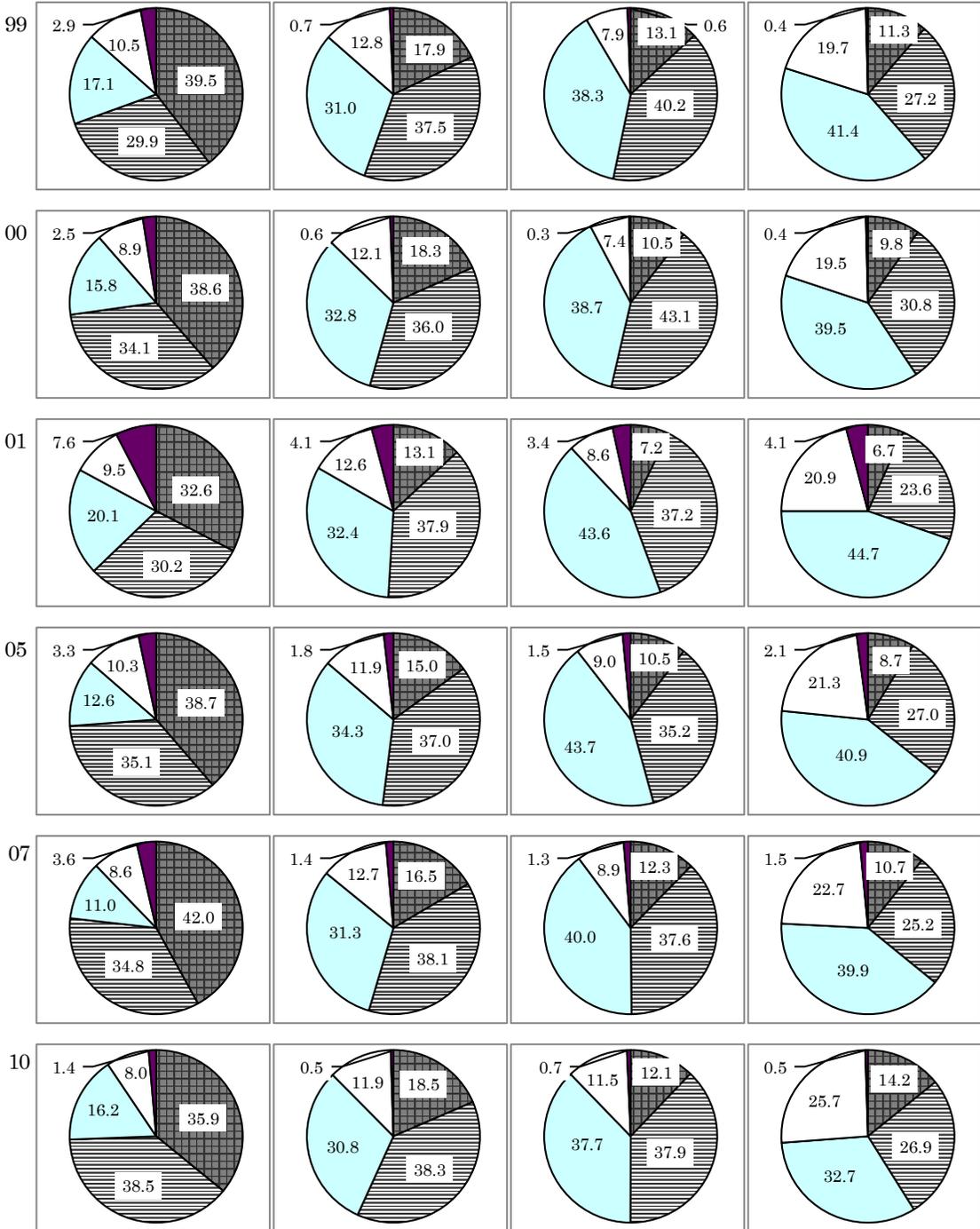
グラフ 12b2

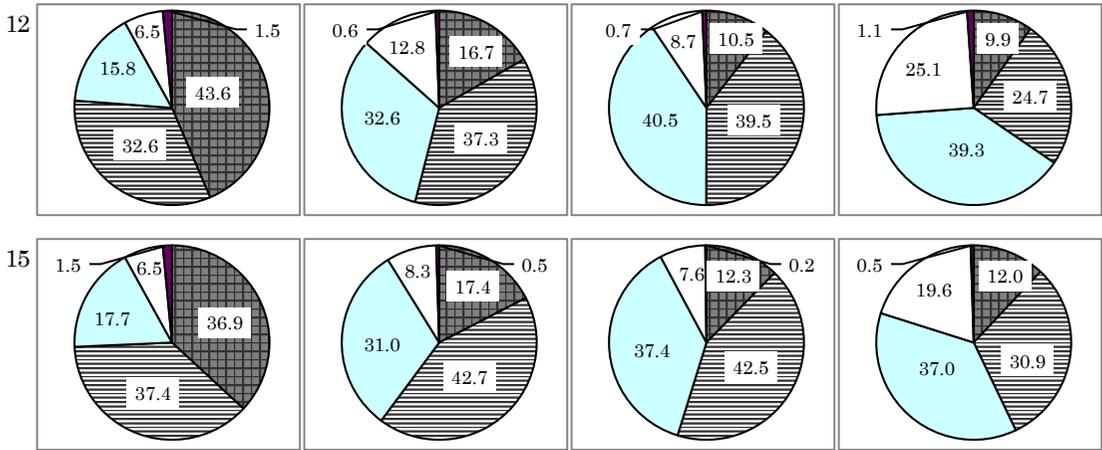
①信仰を持っている

②関心あり

③あまりなし

④全くなし





③ 霊魂の存在

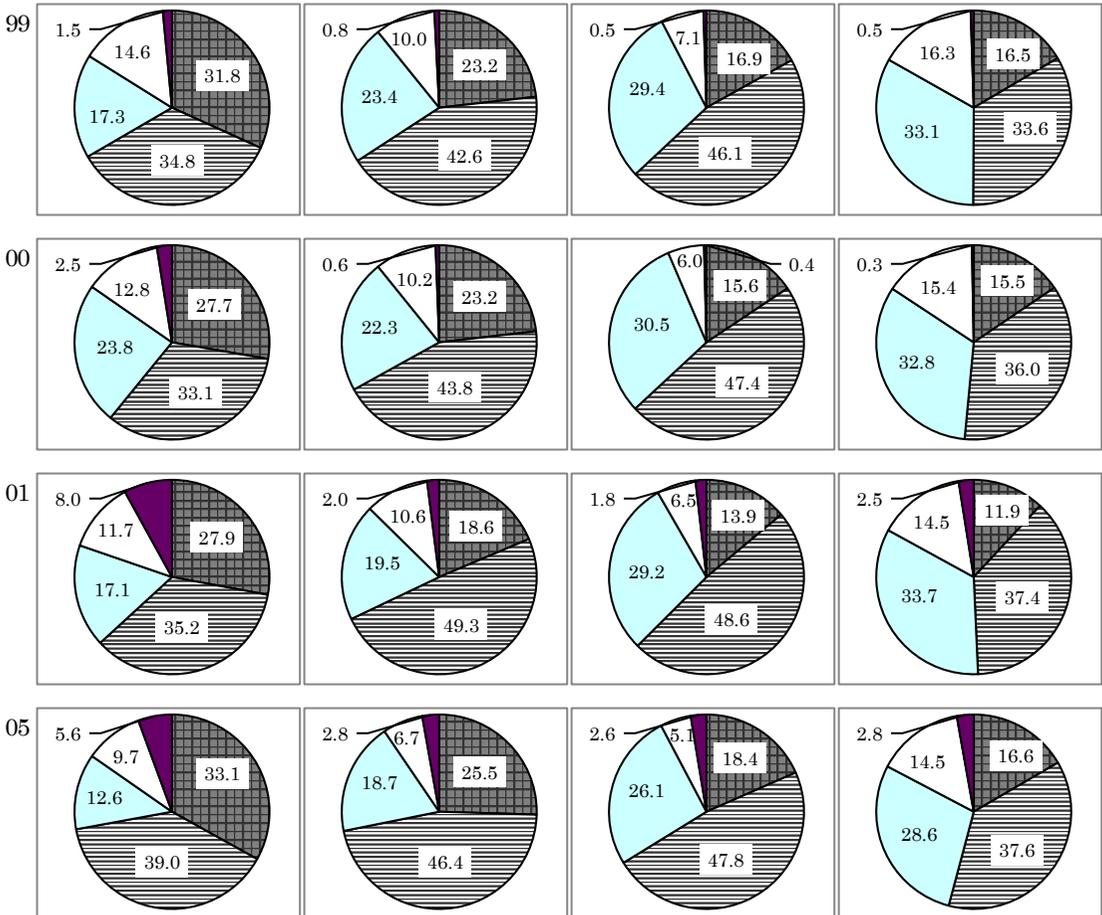
グラフ 12b3

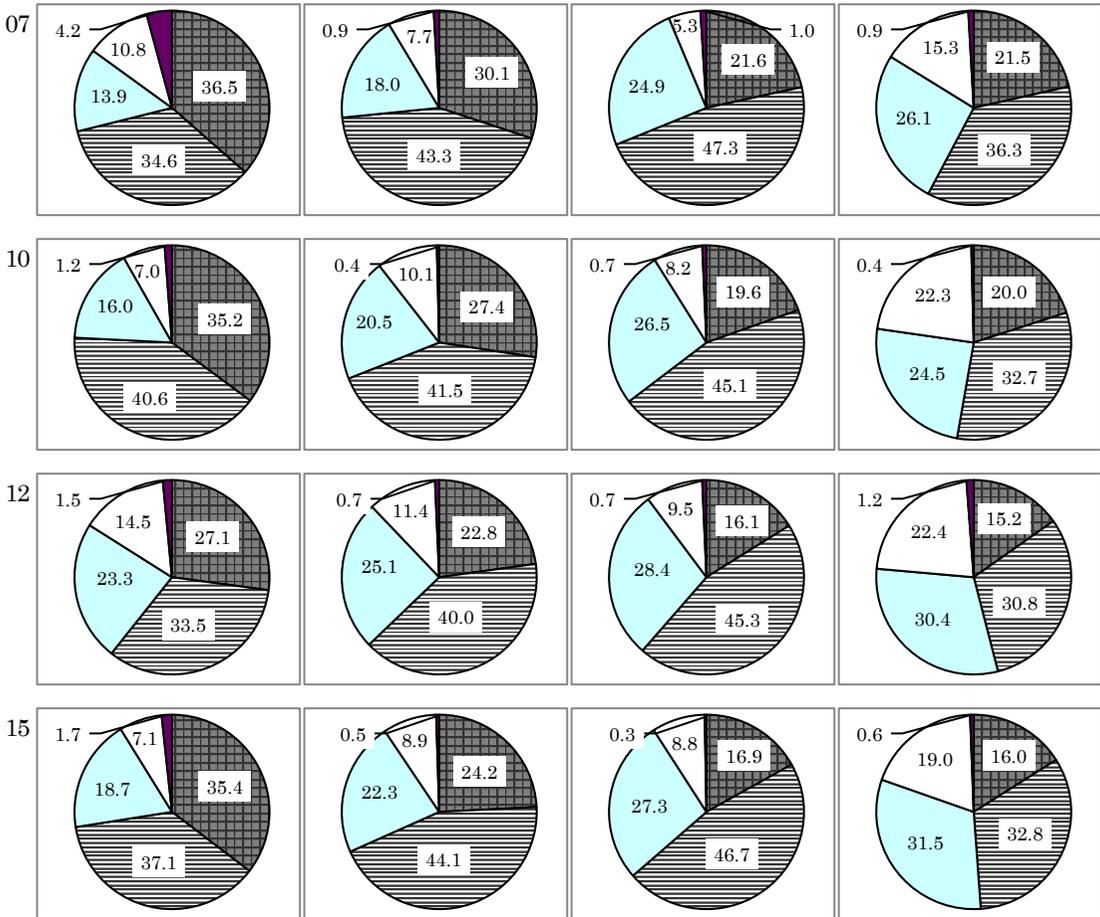
① 信仰を持っている

② 関心あり

③ あまりなし

④ 全くなし





* 霊魂の存在を信じる割合も信仰をもつ人がもっとも高いが、その差は神仏の存在を信じる割合に比べると小さい。

c) イスラム教への関心・意識

イスラム教に関しては、イスラム教との関わり、イスラム教への関心、日本にあるモスクに対する意識などを問う設問がある。ここでは、このうちイスラム教への関心への回答と、近所にモスクがあることに対する意識についての回答結果が、宗教への関心の度合いによってどう違うかを見る。

①イスラム教への関心

質問内容

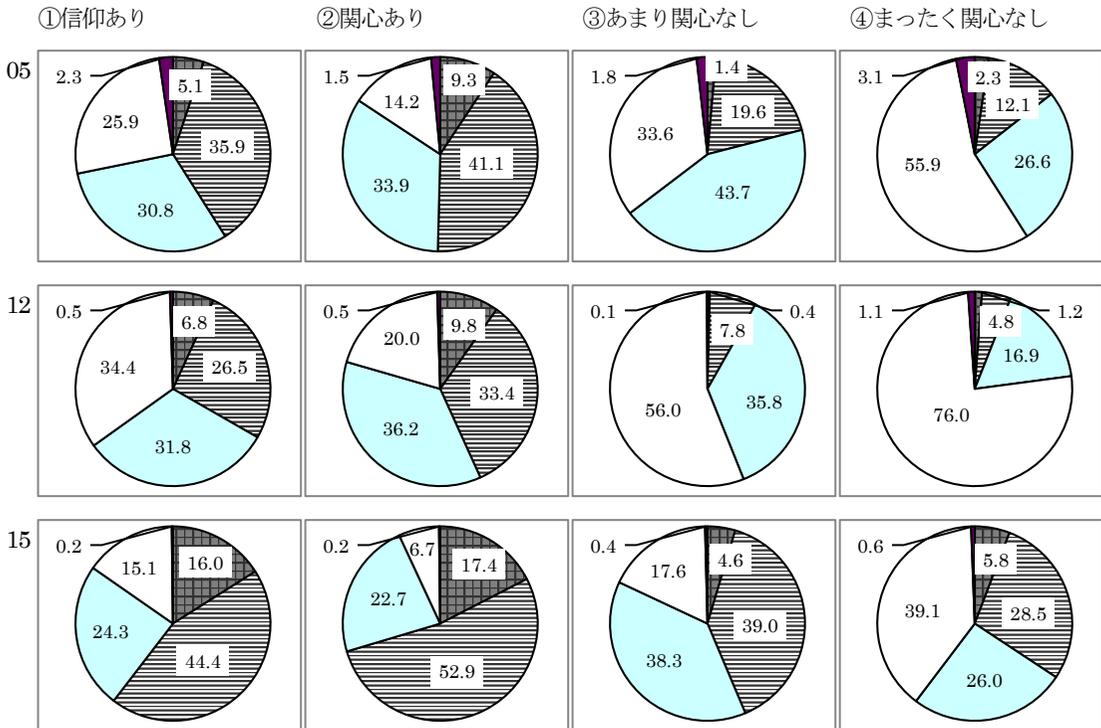
最近のあなたのイスラム教への関心は次のうちどれですか

- 1.大変高い 2.やや高い 3.あまり高くない 4.ほとんどない

回答の選択肢

	1.+++ : 大変高い		2.+ : やや高い
	3.- : あまり高くない		4.-- : ほとんどない
	5.無回答		

グラフ 12c1



* 「信仰をもつ」と回答した人が「イスラム教に関心をもつ」と回答した割合でもっとも高いわけではないことが分かる。むしろ「宗教に関心がある」と答えた人の方が、イスラム教にも関心をもっている。

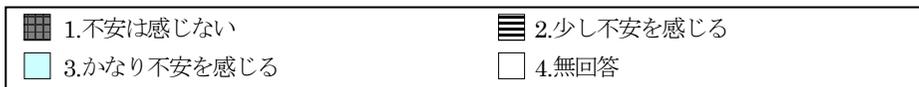
②近所のモスクへの意識

質問内容

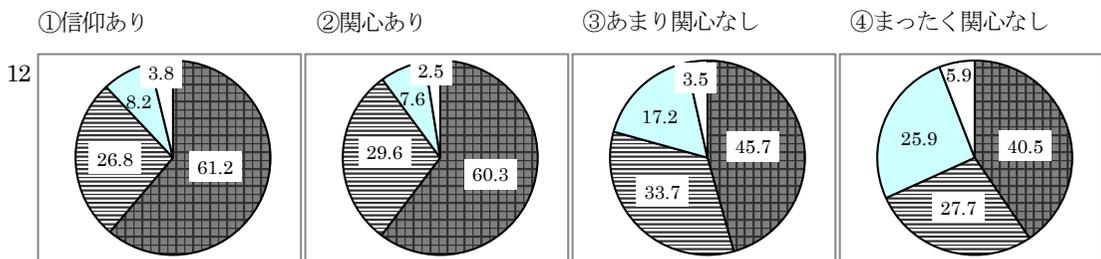
モスク(イスラム寺院)が近所にできることになったとするとあなたは不安を感じますか

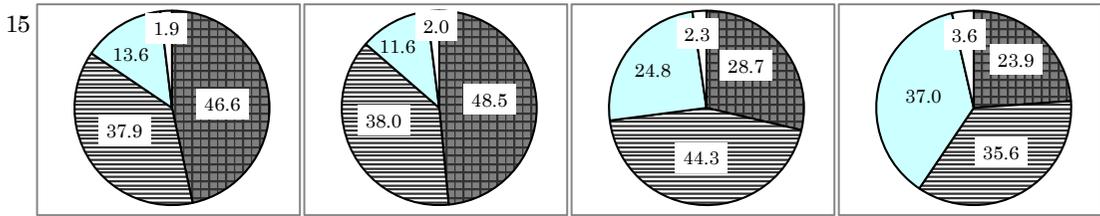
1. 不安は感じない 2. 少し不安を感じる 3. かなり不安を感じる

上記選択肢のグラフ内での模様



グラフ 12c2





d) 宗教教育の必要性

宗教教育に関しては9回の質問を行ったが、内容的に少し異なる3種類がある。それぞれの質問に対してのクロス集計を見ていく。

質問内容

次のような意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

(1996～1999年)

「高校までにもっと宗教についての基礎知識を教えるべきだ」 []

(2005年)

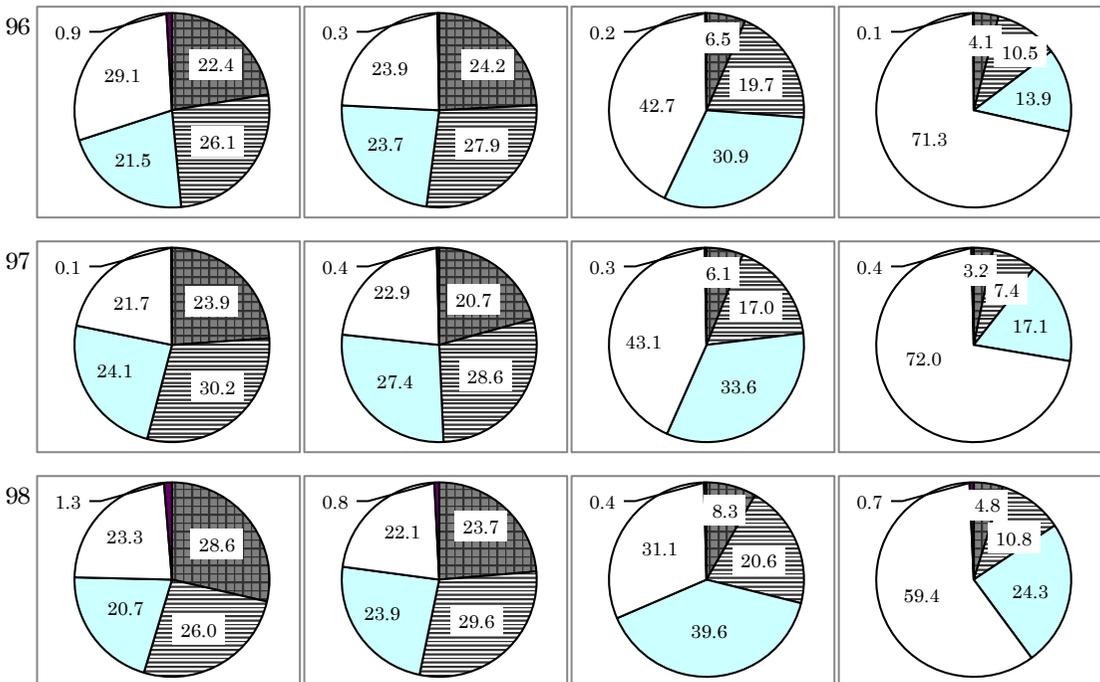
「高校までにもっと世界の宗教についての基礎知識を教えるべきだ」 []

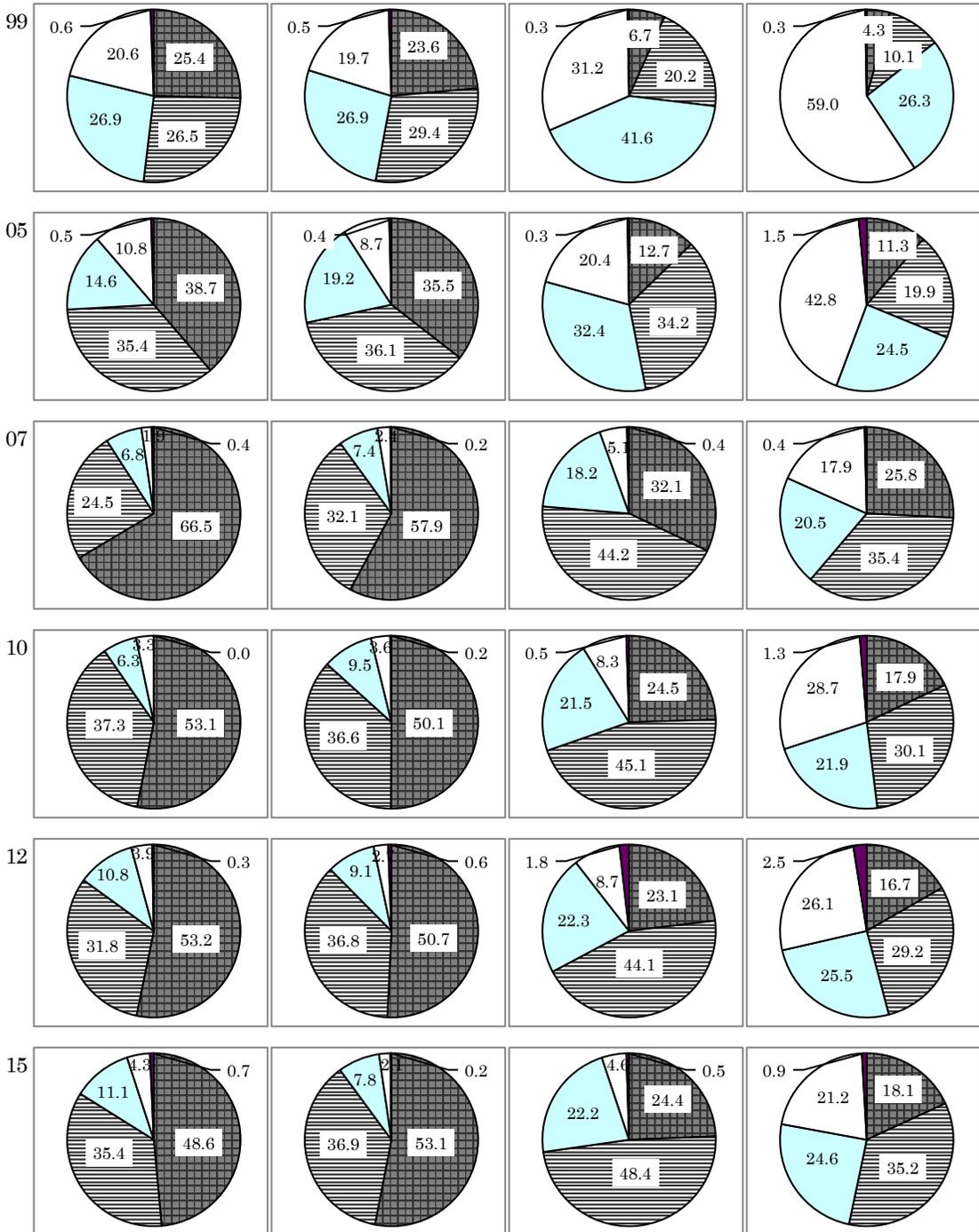
(2007～2015年)

「高校までに日本や世界の宗教文化についての基礎的な知識を学んだ方がいい」 []

グラフ 12d1

①信仰あり ②関心あり ③あまり関心なし ④まったく関心なし





* 宗教教育の必要性との相関で特徴的なのは、「信仰をもつ人」と「宗教に関心がある人」との間であまり差がないというだけでなく、宗教文化教育に当たるような宗教教育の必要性を質問した2007年以降は、「宗教に関心がある」と回答した人の方が、必要性を認める割合が高くなる年があったという点である。

e) パワースポット

パワースポットについては2010年から2015年まで3回質問している。

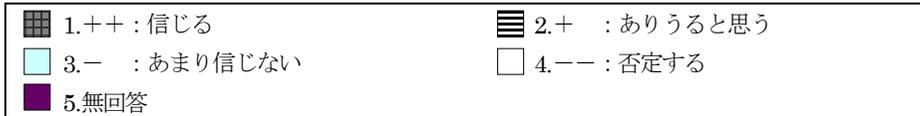
質問内容

神、仏、靈魂の存在について、それぞれく >内の1~4のどれになるか、番号で答えて下さい。

<1.信じる 2.ありうと思う 3.あまり信じない 4.否定する>

パワースポットの存在 []

回答の選択肢の記号



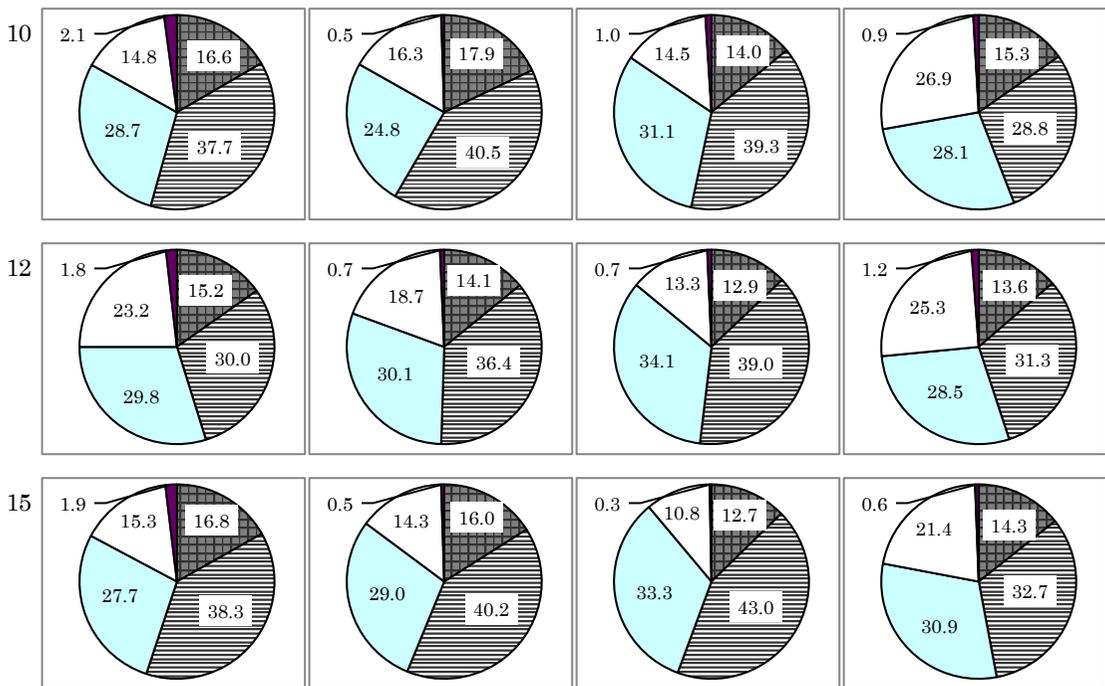
グラフ 12e1

①信仰を持っている

②関心あり

③あまりなし

④全くなし



*パワースポットを信じるかどうかは、信仰の有無や宗教への関心とはほとんど相関がない。パワースポットを信じる割合は、「宗教にまったく関心がない」と回答した人と「信仰をもつ」と回答した人との間でも、1~2%程度の差があるだけである。

第13章 両親の信仰の有無との相関

ここでは両親の信仰の有無と回答者の宗教観との間にどのような相関があるかを調べた。クロス集計したのは、宗教への関心、宗教が必要だと思うかどうか、そして宗教はアブナイというイメージをもつかどうかという点である。父母の信仰については別々に質問してある。

質問内容

あなたのお父さんは個人で信仰をもっていますか。 1.はい 2.いいえ

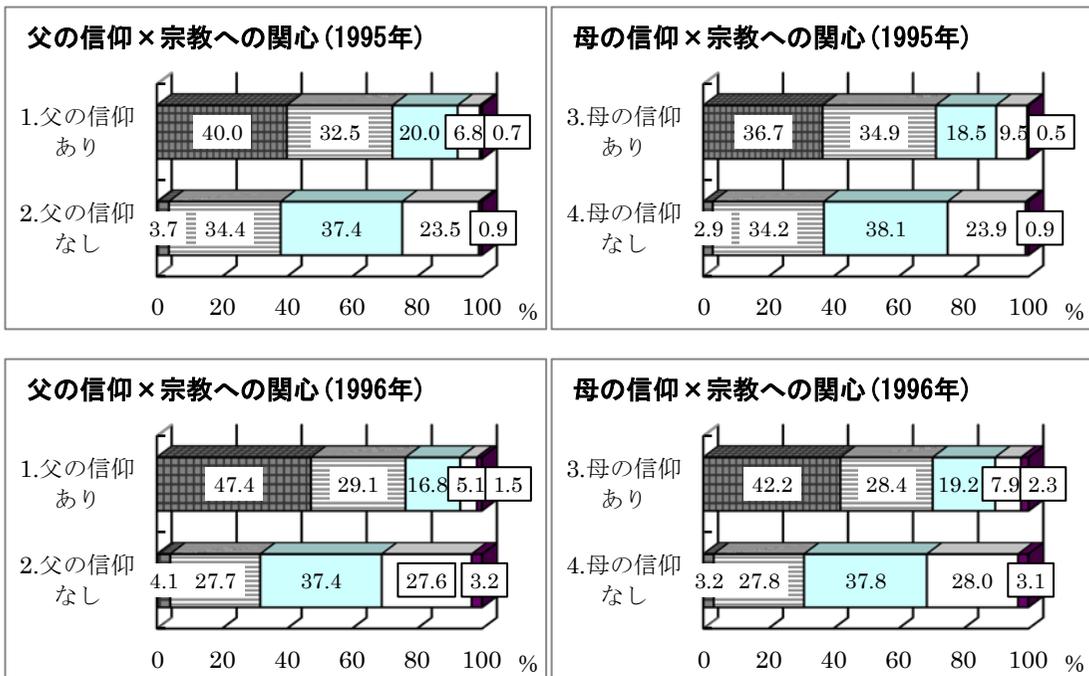
あなたのお母さんは個人で信仰をもっていますか。 1.はい 2.いいえ

a) 宗教への関心

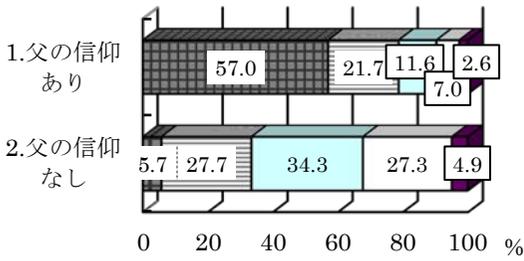
「あなたは宗教にどの程度関心がありますか」という質問への回答の選択肢



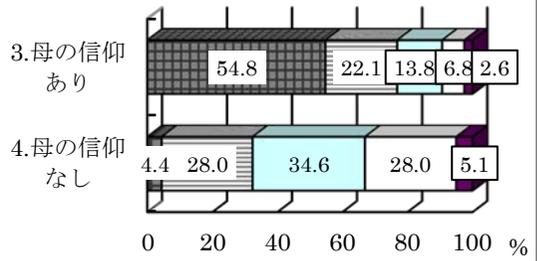
グラフ 13a1



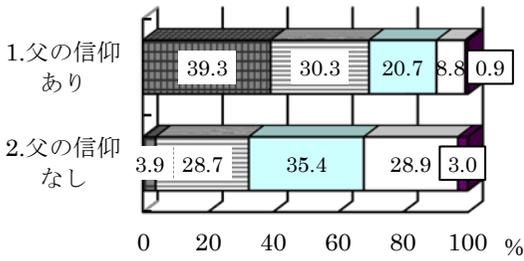
父の信仰×宗教への関心(1997年)



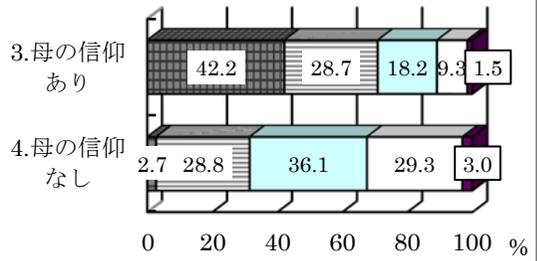
母の信仰×宗教への関心(1997年)



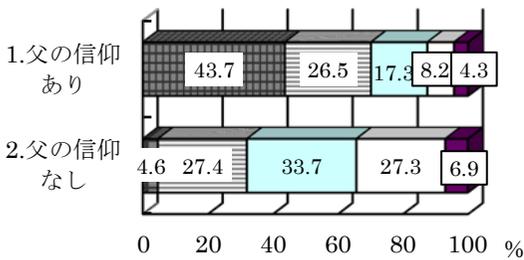
父の信仰×宗教への関心(1998年)



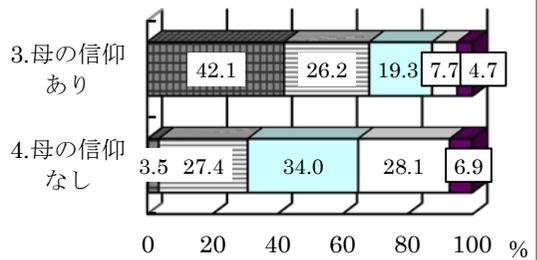
母の信仰×宗教への関心(1998年)



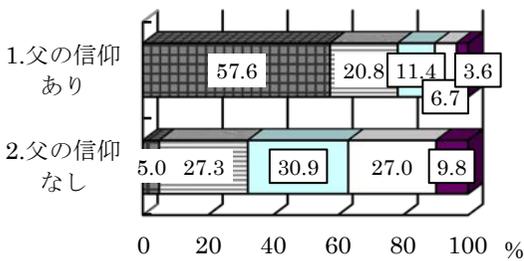
父の信仰×宗教への関心(1999年)



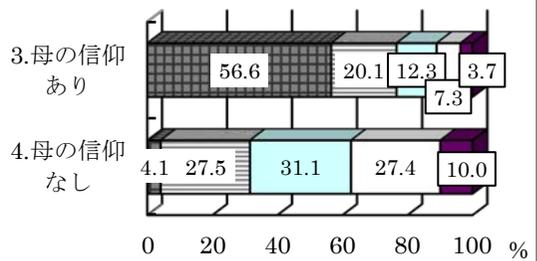
母の信仰×宗教への関心(1999年)



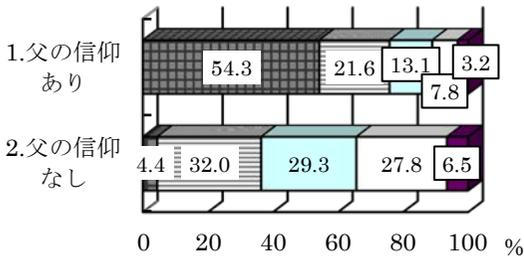
父の信仰×宗教への関心(2000年)



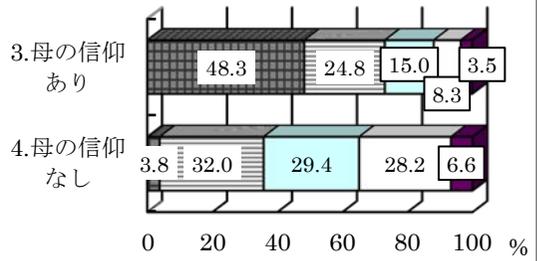
母の信仰×宗教への関心(2000年)



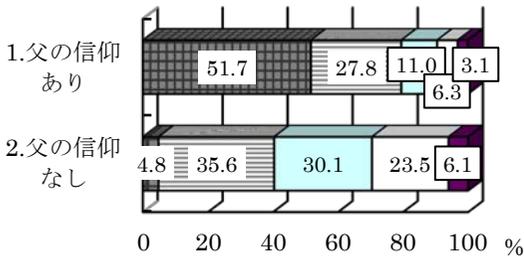
父の信仰×宗教への関心(2001年)



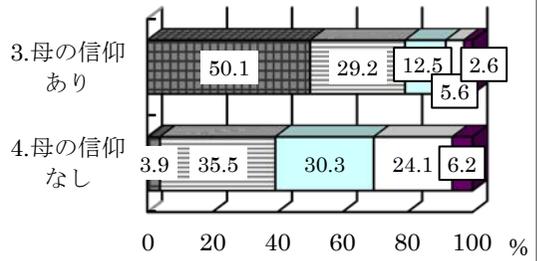
母の信仰×宗教への関心(2001年)



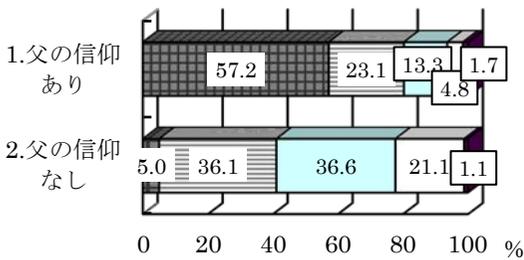
父の信仰×宗教への関心(2005年)



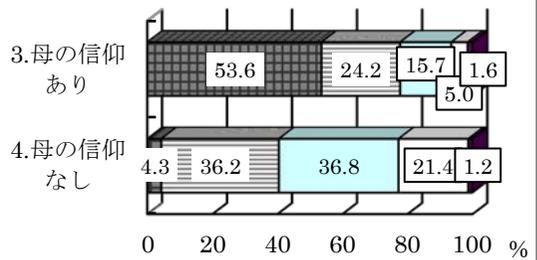
母の信仰×宗教への関心(2005年)



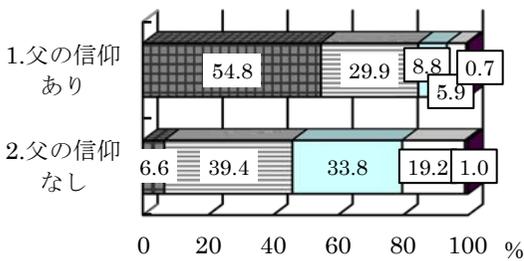
父の信仰×宗教への関心(2007年)



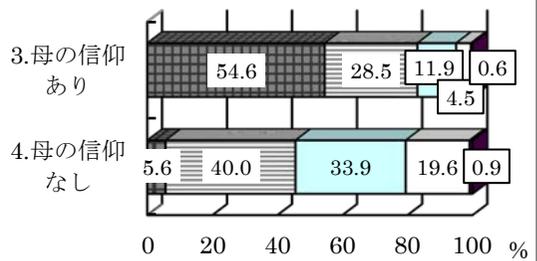
母の信仰×宗教への関心(2007年)

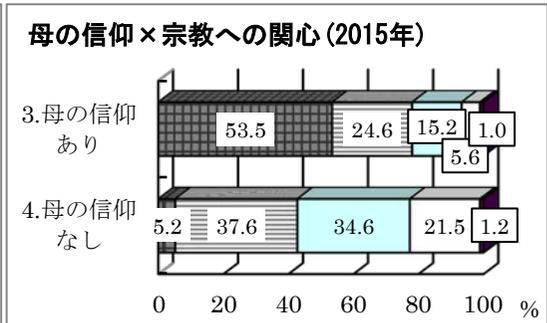
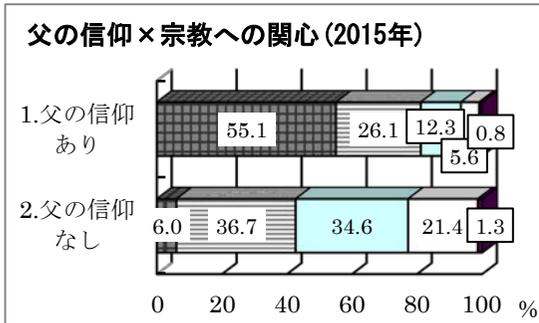
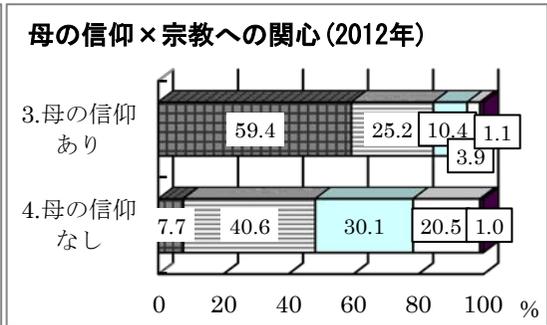
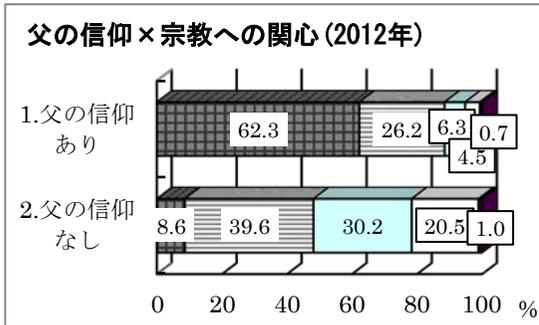


父の信仰×宗教への関心(2010年)



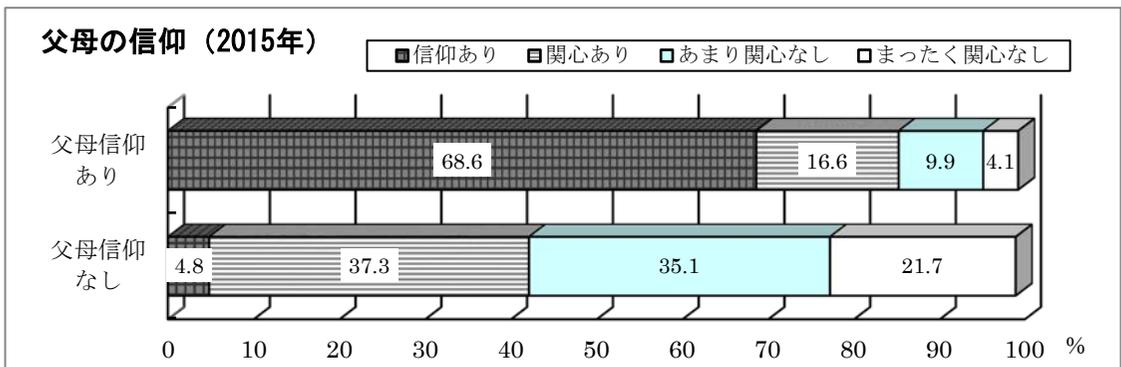
母の信仰×宗教への関心(2010年)





* 父母が信仰をもっている場合に、回答者が信仰をもつ割合は明らかに高く、強い相関性があることが見てとれる。年によっては父母が信仰をもっていない場合に比べて10倍ほどの違いが出ている。これは父母が信仰をもっているかどうか、回答者が信仰をもつかどうかに関してきわめて強い影響力を及ぼしていることを示している。このクロス集計では父母別々に相関を調べたが、「父母とも信仰あり」と「父母とも信仰なし」になると、その対比はより明確になるので、2015年に関してそのグラフを作成した。父母とも信仰があると、父母とも信仰がない場合に比べて学生が信仰をもつ割合が14.3倍多くなっている。

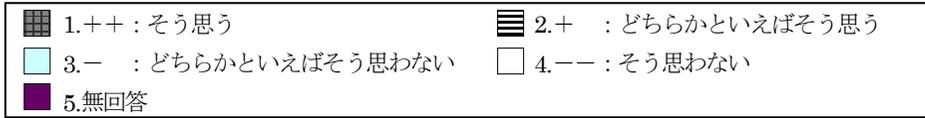
グラフ 13a2



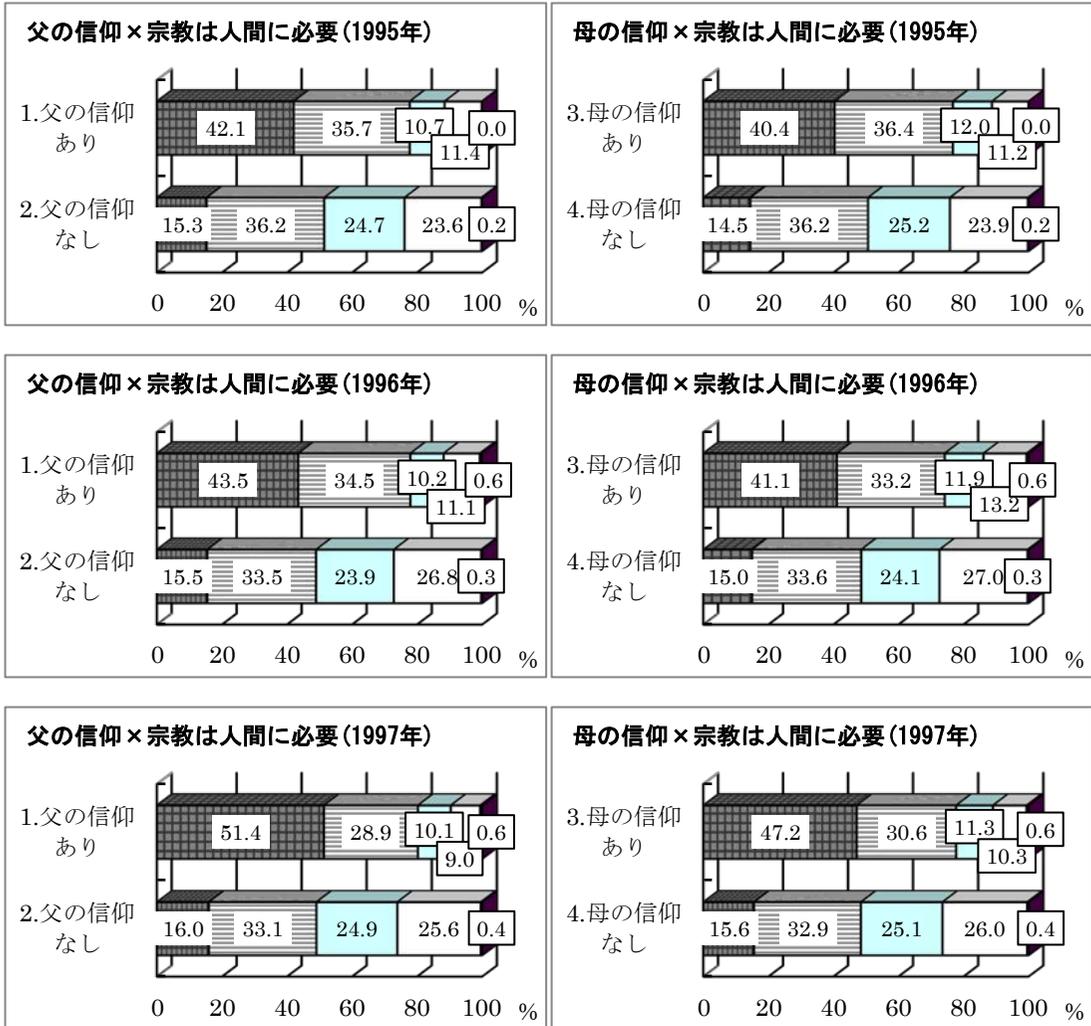
* 父母とも信仰があるかないかで、回答者が信仰をもつ割合は14.3倍もの開きがある。

b) 宗教は人間に必要と思うか

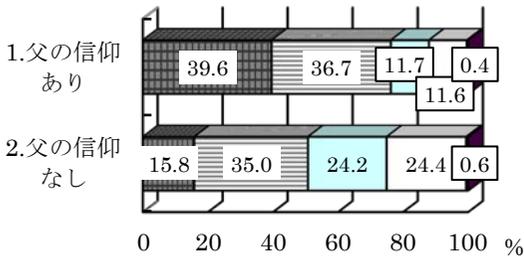
「どんなに科学が発達しても、宗教は人間に必要な。」という意見への回答の選択肢と記号



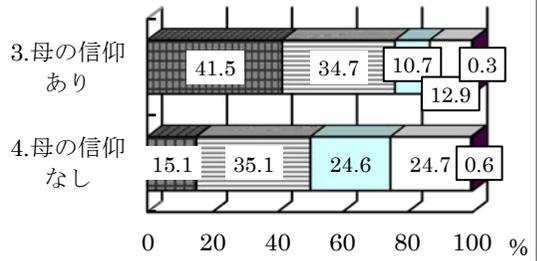
グラフ 13b1



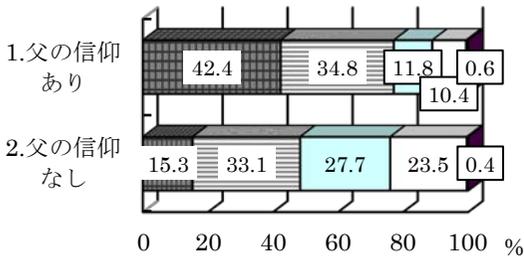
父の信仰 × 宗教は人間に必要 (1998年)



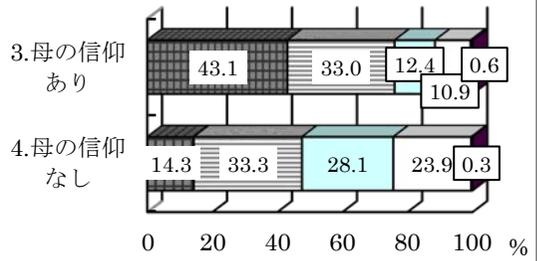
母の信仰 × 宗教は人間に必要 (1998年)



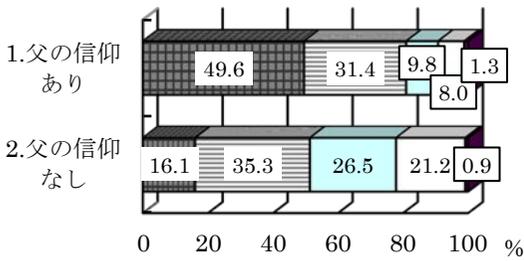
父の信仰 × 宗教は人間に必要 (1999年)



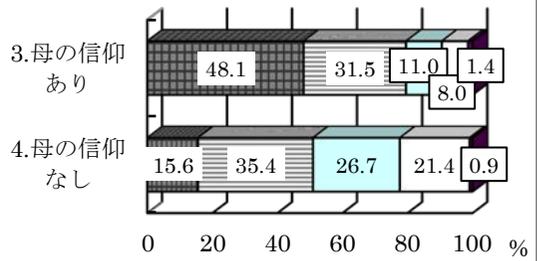
母の信仰 × 宗教は人間に必要 (1999年)



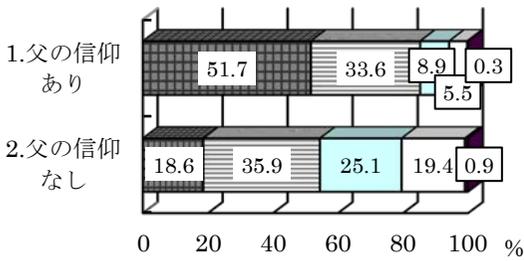
父の信仰 × 宗教は人間に必要 (2000年)



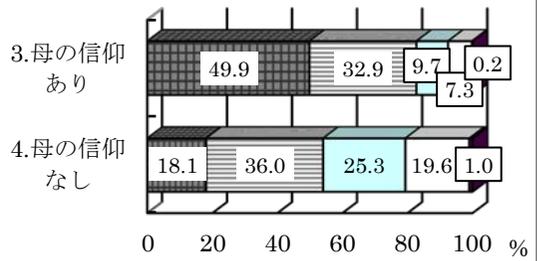
母の信仰 × 宗教は人間に必要 (2000年)

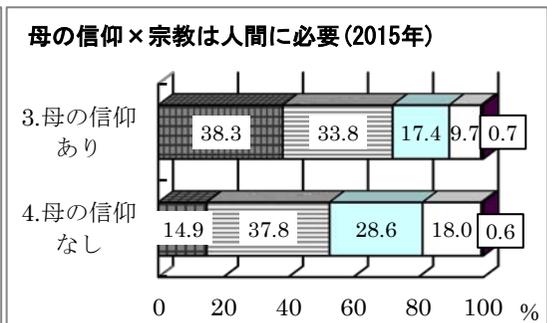
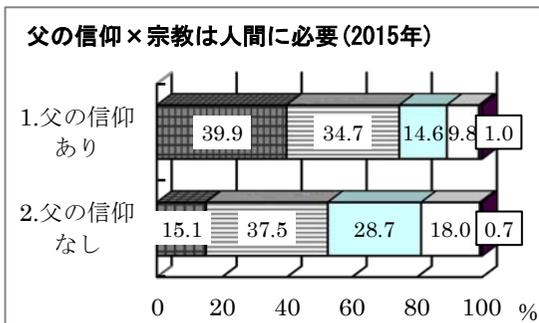
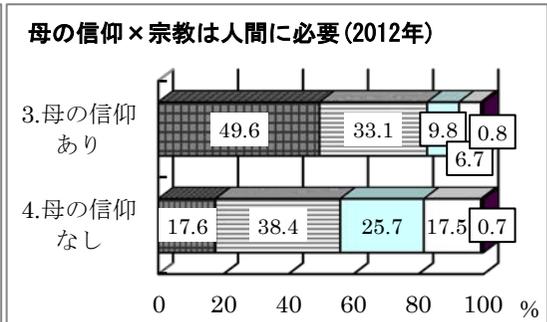
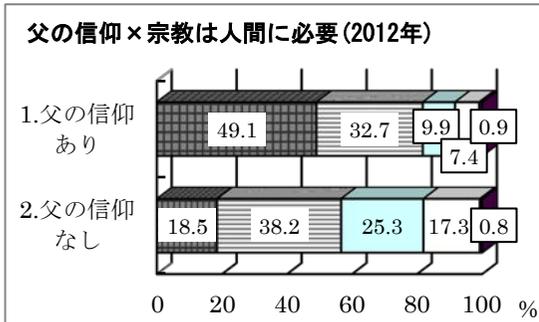
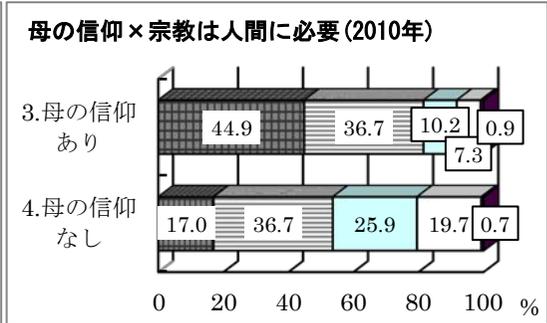
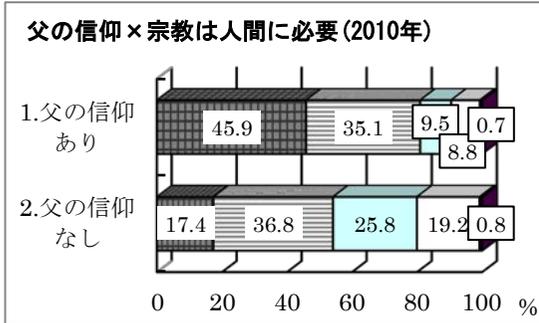
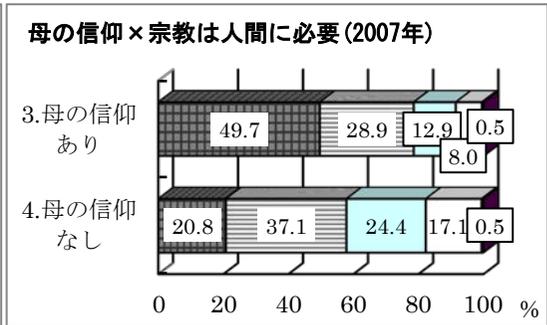
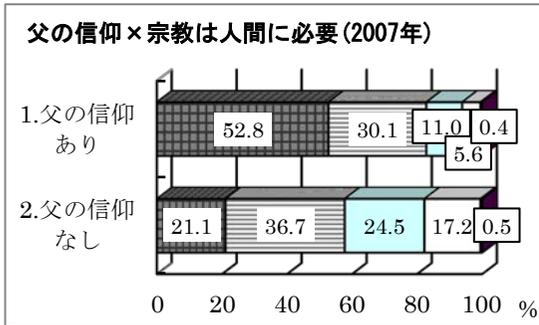


父の信仰 × 宗教は人間に必要 (2005年)



母の信仰 × 宗教は人間に必要 (2005年)



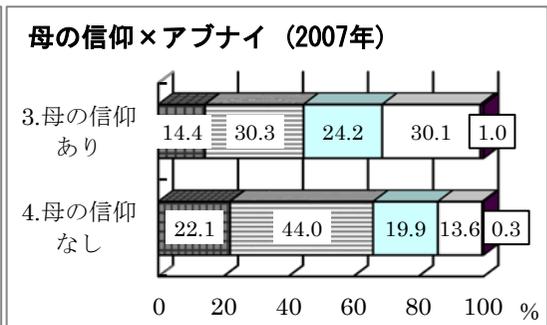
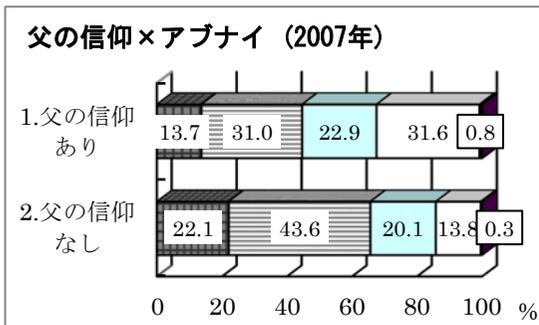
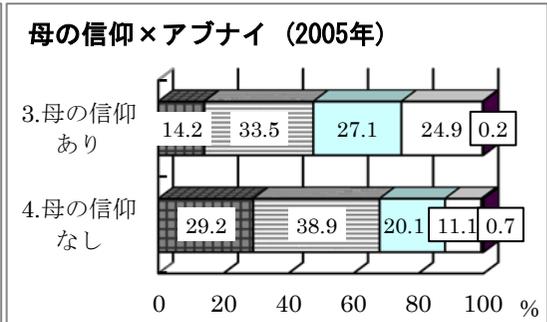
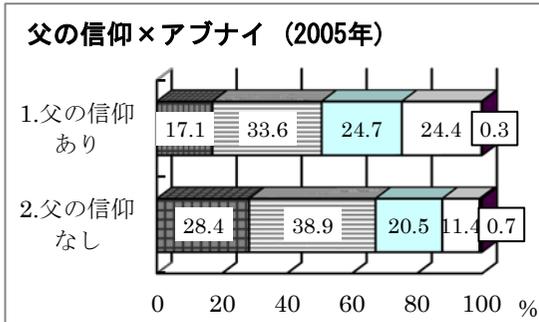
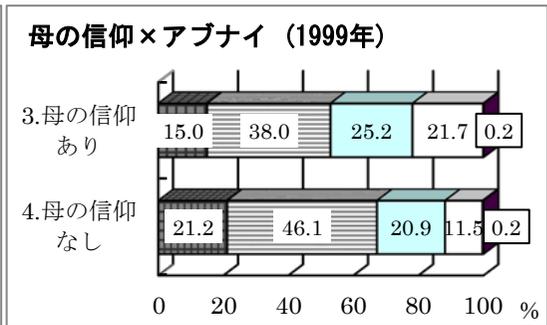
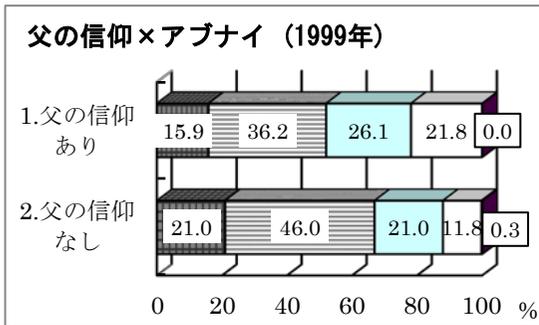
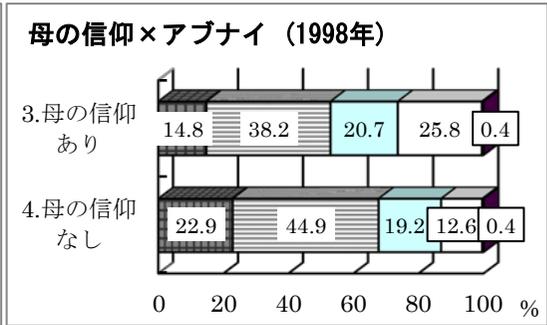
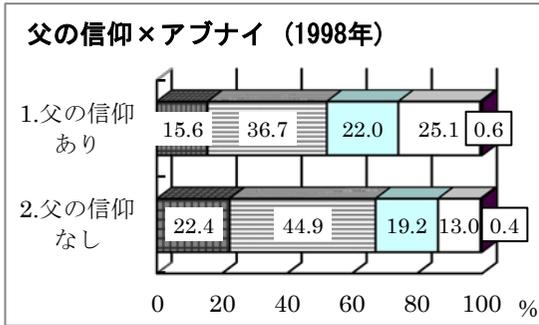


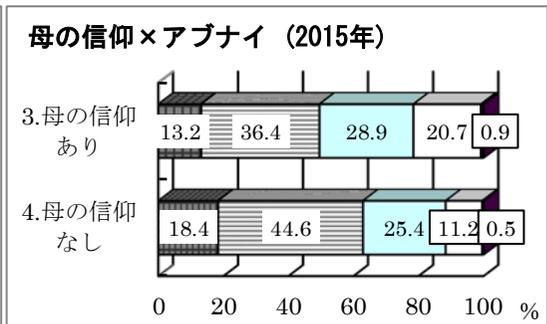
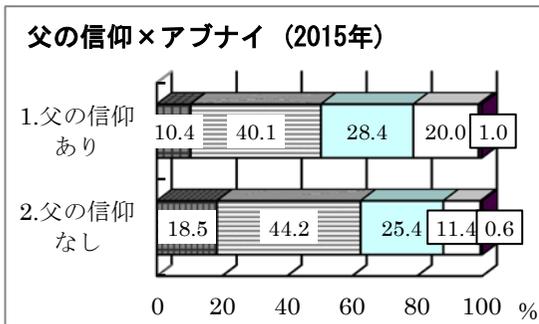
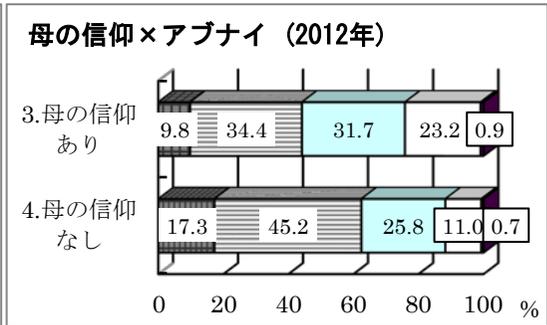
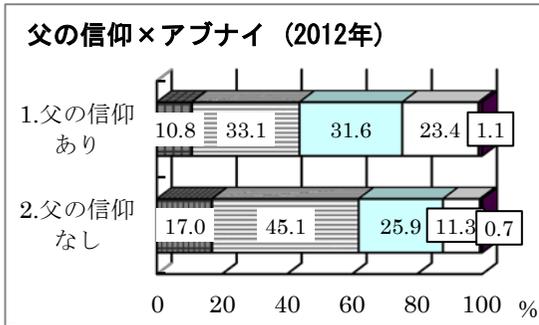
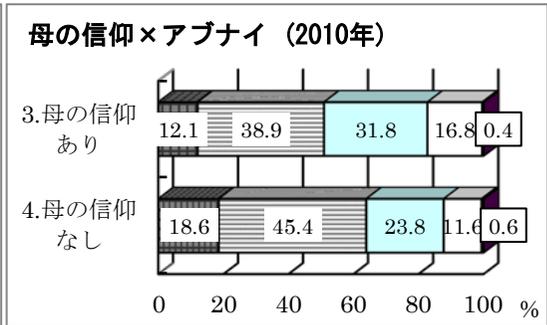
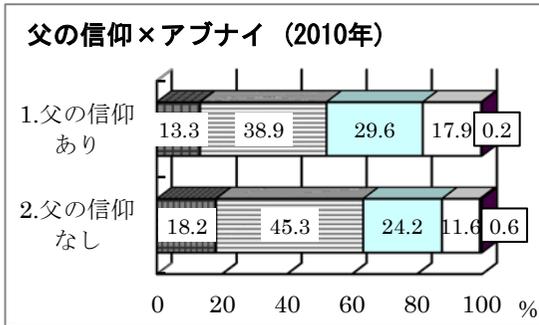
* 「宗教は人間に必要と思う」と回答する割合も、父母の信仰の有無との間に相関が見いだされる。

c) 宗教はアブナイと思うか

回答の選択肢と記号はbと同じである。

グラフ 13c1





* 父母に信仰がある場合はそうでない場合に比べて、「宗教はアブナイ」と思う割合が低くなる、という逆の相関が見られる。ただ学生が信仰をもつ割合や宗教は人間に必要と思う割合との間の相関度に比べるとかなり弱い相関である。

第14章 性別との相関

占いに関しては性別による差が大きいので、どの程度の差があるかが分かりやすいように性別によるクロス集計を行った。星占い、手相、姓名判断、コンピュータ占い、血液型による性格判断について相関性を見ていく。

占いの場合、質問の形式が年によって異なっている。回答の選択肢の中の用語を変えた場合や、判断の基準を変えた場合がある。それぞれの項目で質問形式や回答の選択肢が変わった場合には、異なる表とグラフで示した。

質問内容

次にあげた占いについて「1.かなり当たると思う 2.当たることもあると思う 3.当たらない 4.関心がないのでどんなことをするのか知らない」のなかから、番号で答えて下さい。

(1995年の場合)

- 1.生まれ月による星占い []
- 2.手相 []
- 3.姓名判断 []
- 4.コンピュータ占い []
- 5.血液型による性格判断 []

以下の表で++等の記号は年度によって次の通りである。

1995年、1999年、2000年

 1.++ : かなり当たると思う	 2.+ : 当たることもあると思う
 3.-- : 当たらない	 4.? : 関心がないのでわからない
 5.無回答	

2005年

 1.+++ : 信じる	 2.+ : やや信じる
 3.-- : あまり信じない	 4.-- : 信じない
 5.? : この占いがどんなものか知らない	 6.無回答

a) 星占い

回答の選択肢の文言は年度によって次の通り少しずつ変えた。

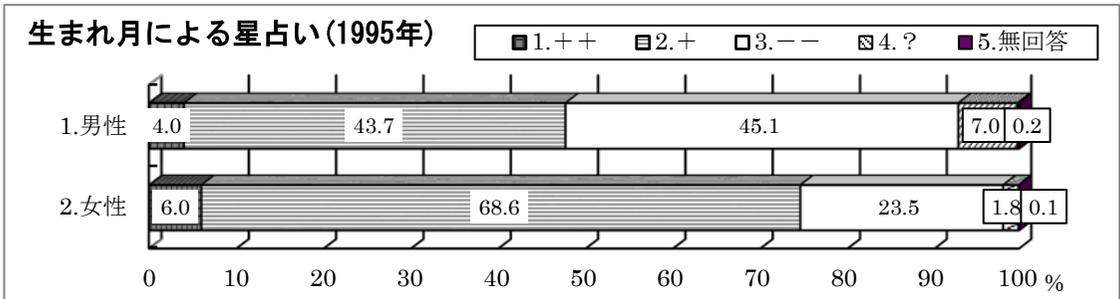
1995年、1999年は「生まれ月による星占い」

2000年は「西洋星占い」

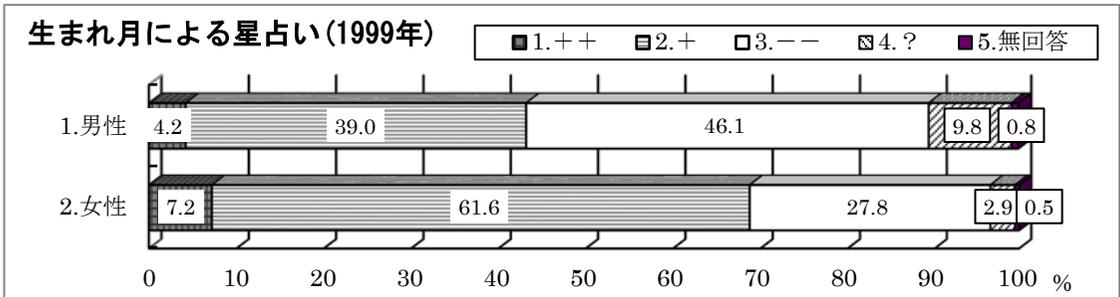
2005年は「毎日テレビでやる星占い」

グラフ 14a1

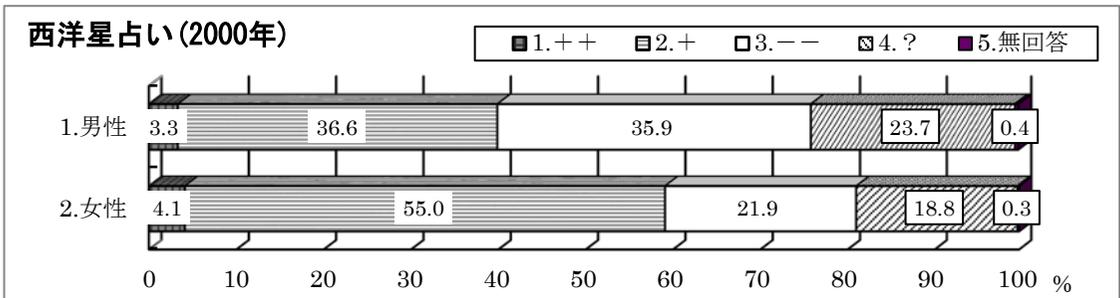
1995年



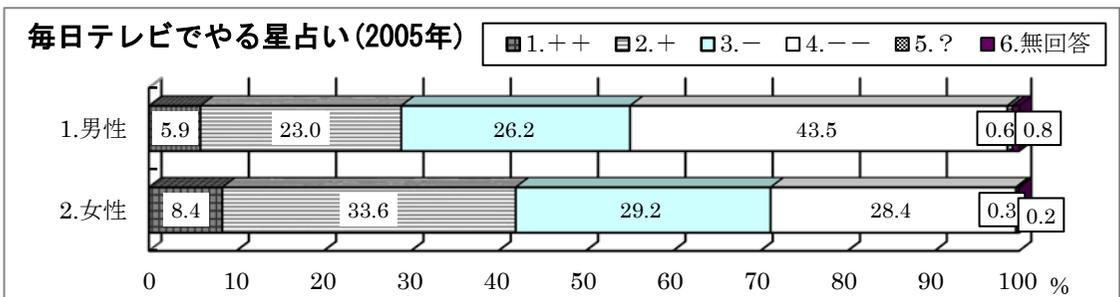
1999年



2000年



2005年

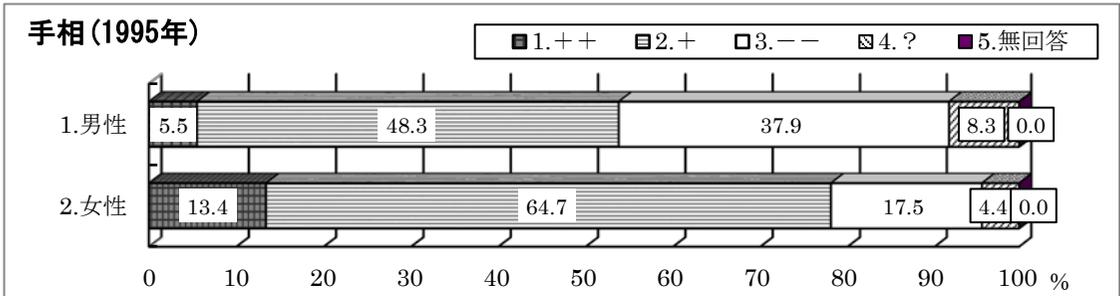


* 「++」で比較しても「++」と「+」を合わせて比較しても、男女差は常に一定程度ある。2倍まではいかないが、1.5倍前後はある。以下の占いでも似たような結果となった。

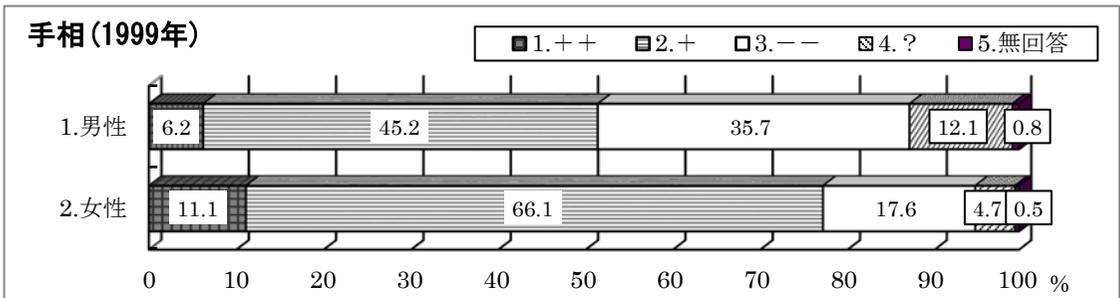
b) 手相

グラフ 14b1

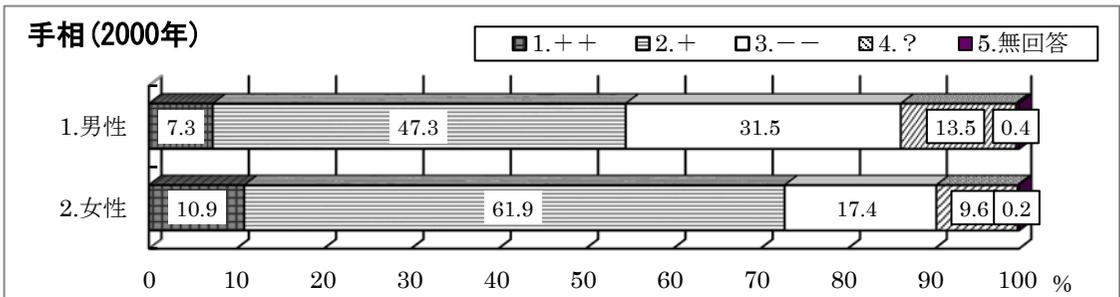
1995年



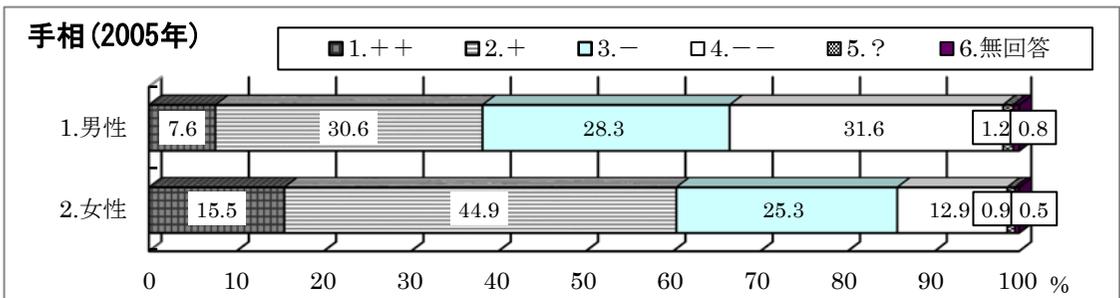
1999年



2000年



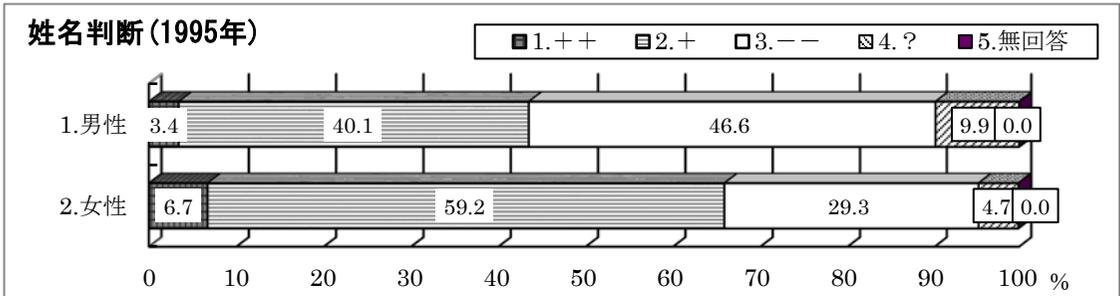
2005年



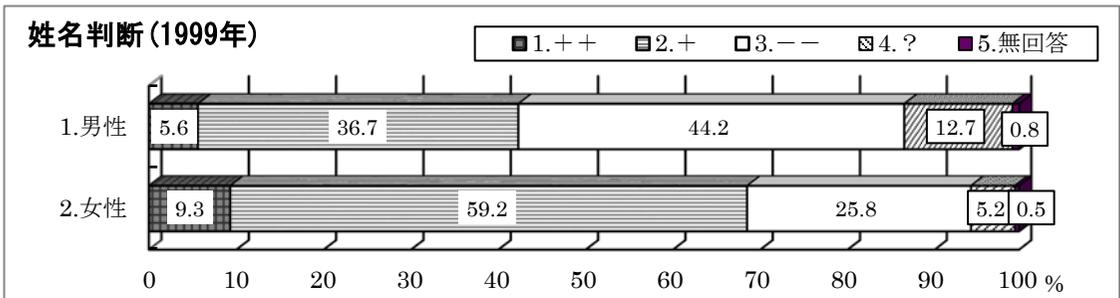
c) 姓名判断

グラフ 14c1

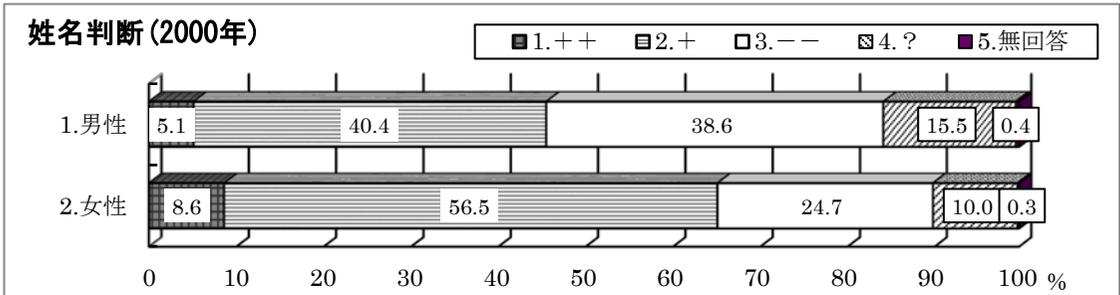
1995年



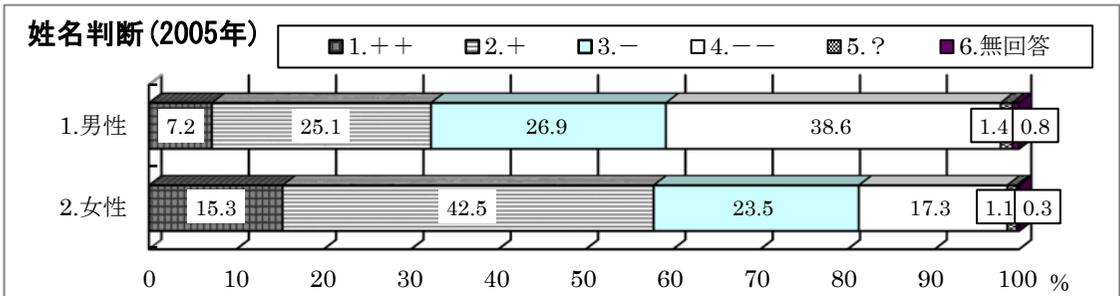
1999年



2000年



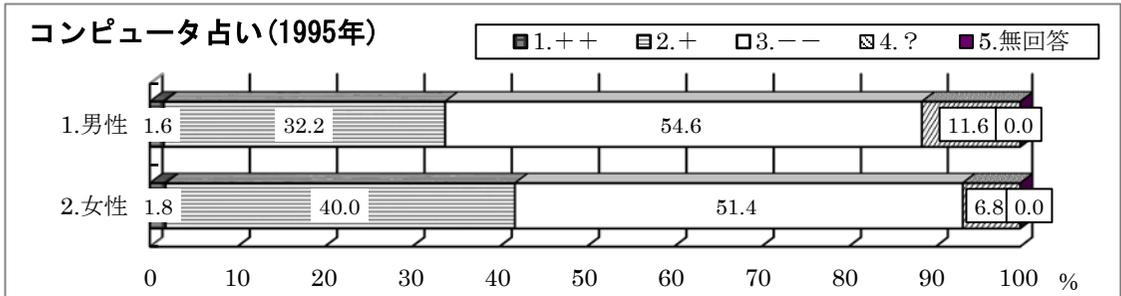
2005年



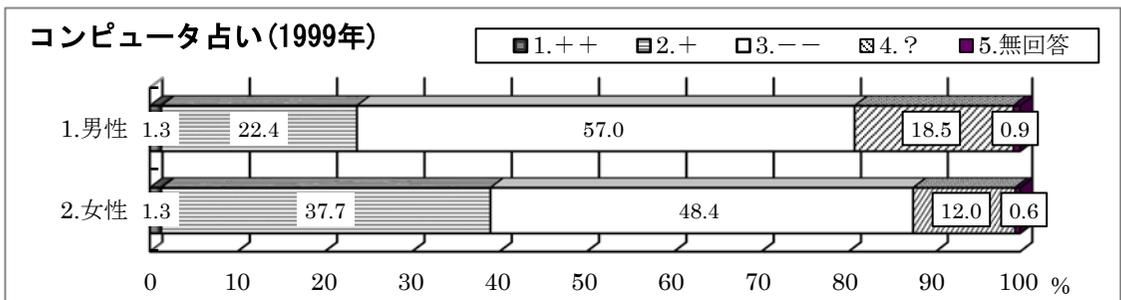
d) コンピュータ占い

グラフ 14d1

1995年



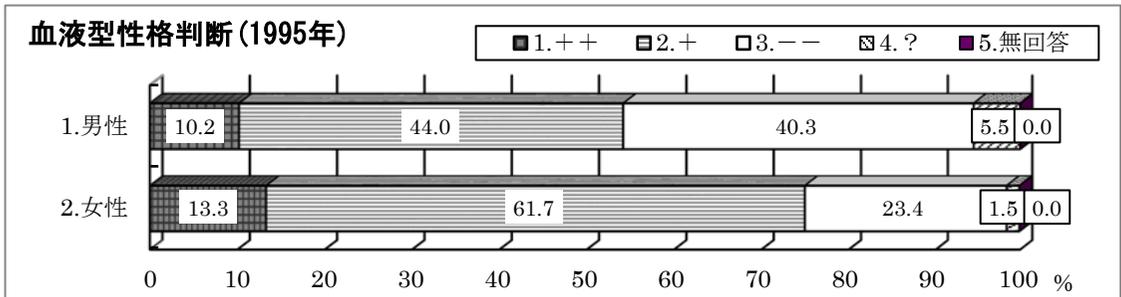
1999年



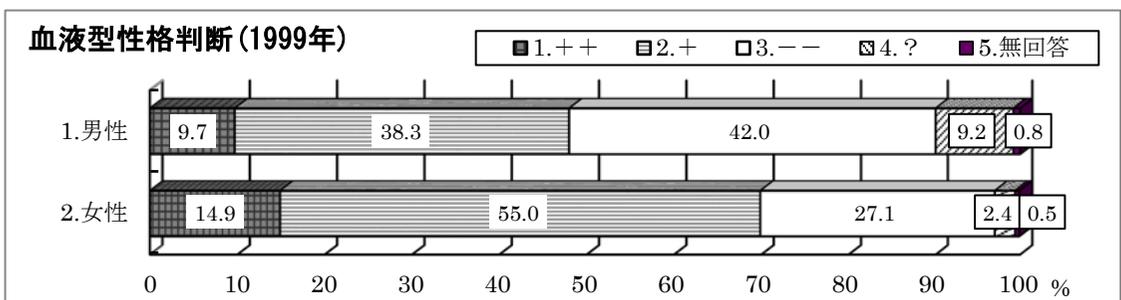
e) 血液型による性格判断

グラフ 14e1

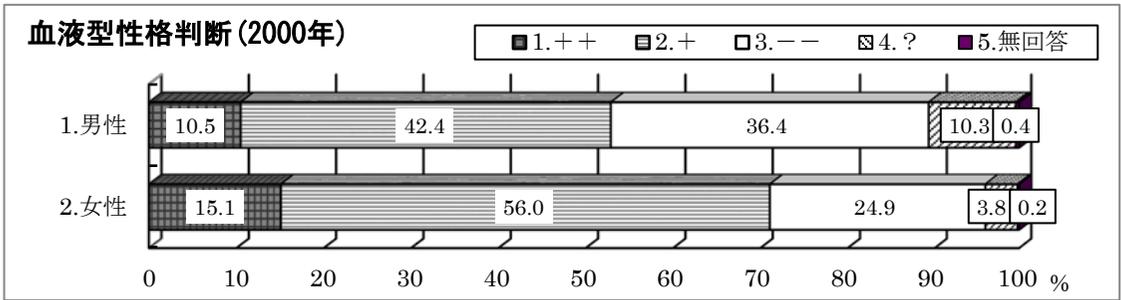
1995年



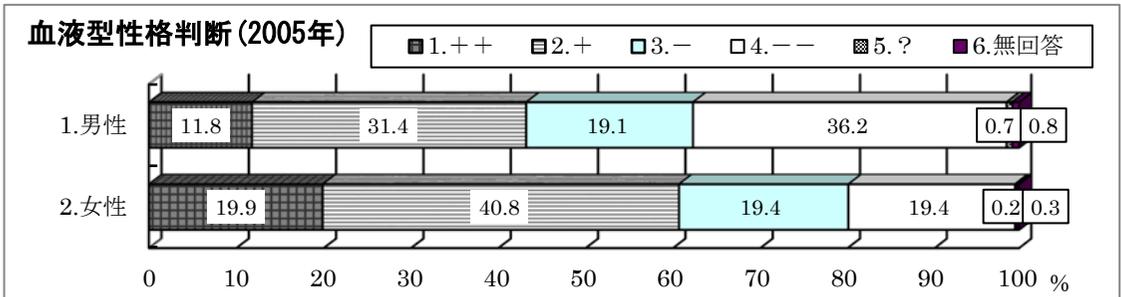
1999年



2000年



2005年



第15章 卒業した高校の宗教系・非宗教系の別との相関

a) 宗教への関心

1996年から2015年まで11回の調査結果でクロス集計した。宗教への関心の質問は1995年も行っているが、この年は卒業した高校の宗教系か非宗教系かが不明なので、96年からのデータでクロス集計した。

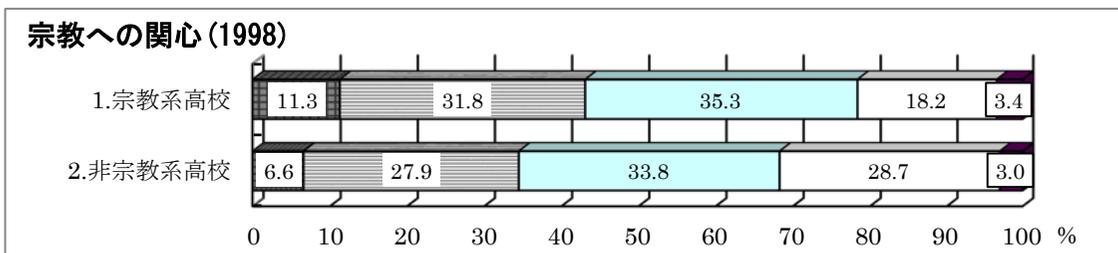
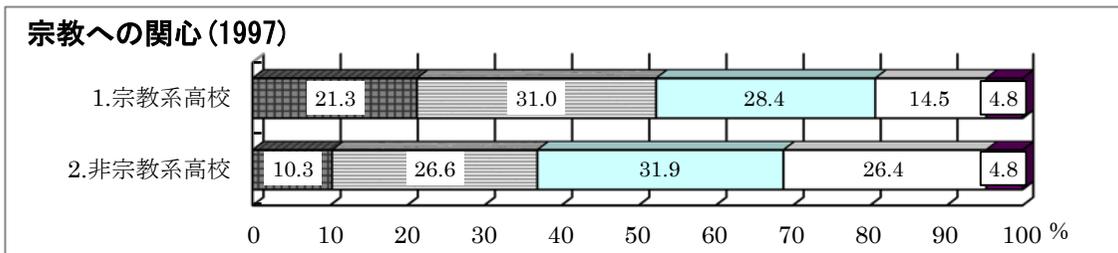
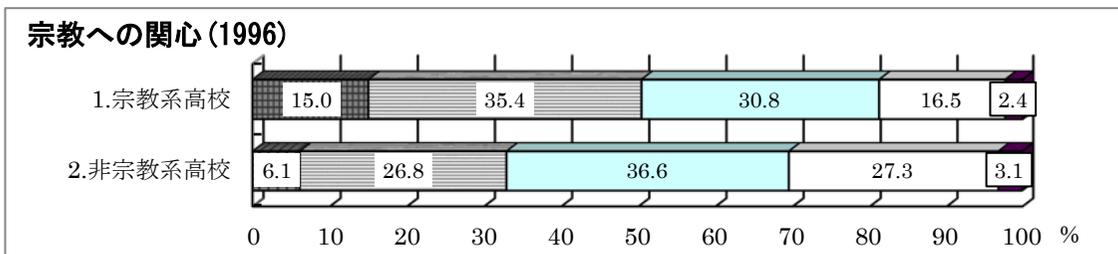
高校が宗教系であったかそうでないかによる違いがある程度見られるものとそうでないものがある。宗教への関心や宗教が必要と思うかどうかは明らかに差がある。霊魂の存在を信じるかには、若干の差が見られる。しかし、墓参り、あるいは占いに関してはほとんど違いが見られない。この点を確認する。

質問内容

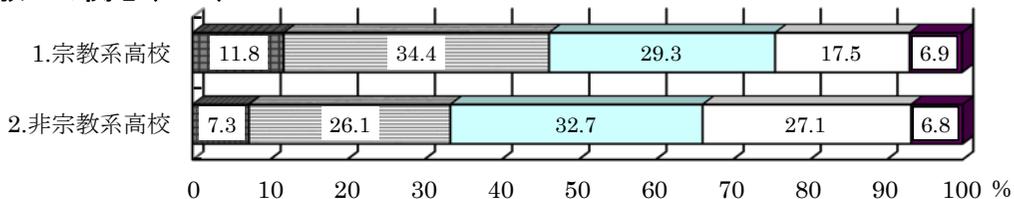
あなたは宗教にどの程度関心がありますか。次のうちから選び、さらにそれぞれの質問に答えて下さい。

1. 現在、信仰をもっている
2. 信仰はもっていないが、宗教に関心がある
3. 信仰はもっていないし、宗教にもあまり関心がない
4. 信仰はもっていないし、宗教にもまったく関心がない

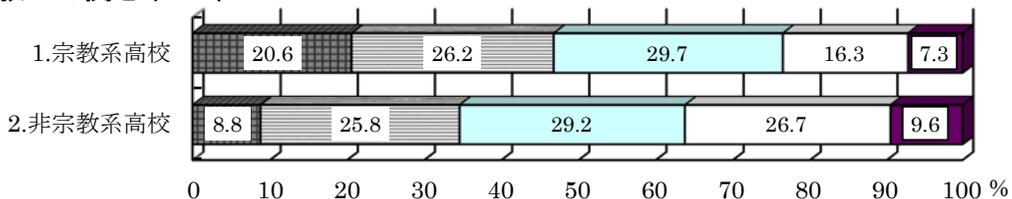
グラフ 15a1



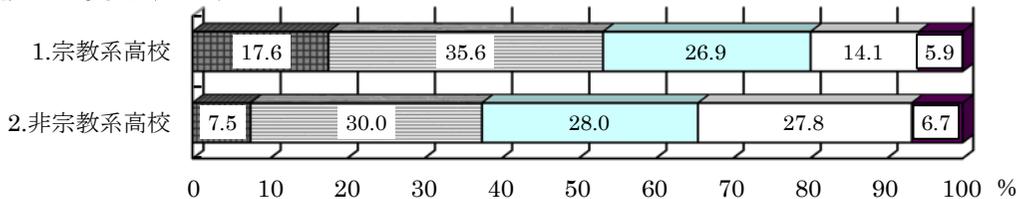
宗教への関心 (1999)



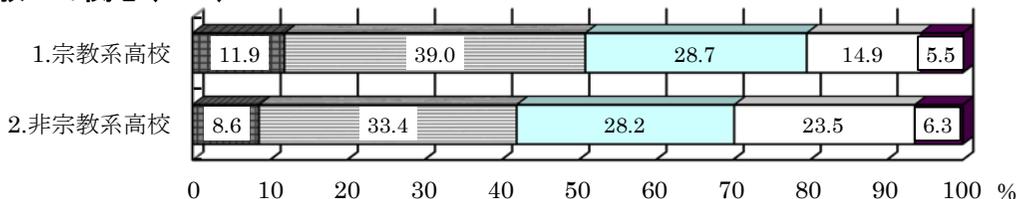
宗教への関心 (2000)



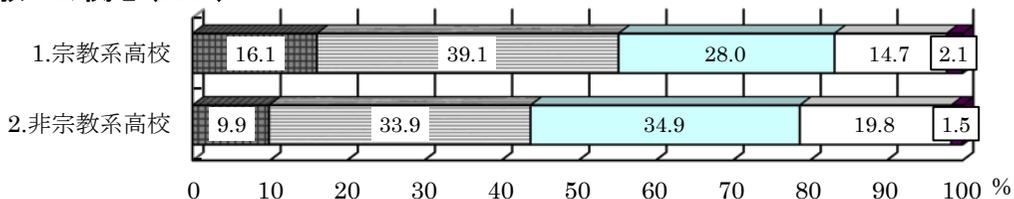
宗教への関心 (2001)



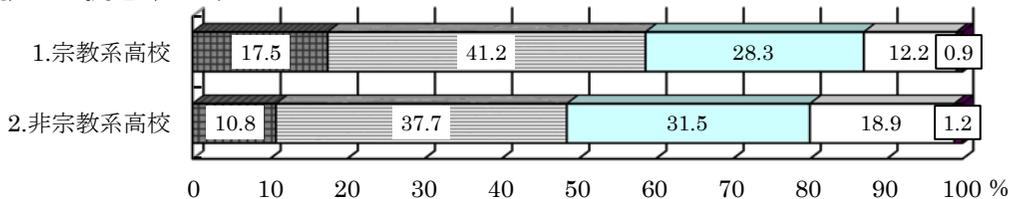
宗教への関心 (2005)

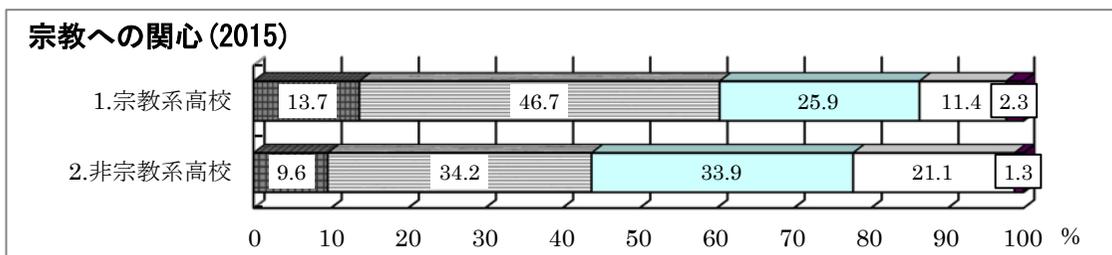
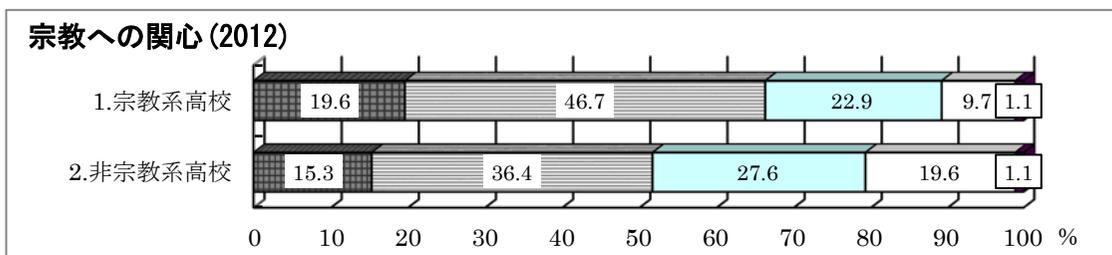


宗教への関心 (2007)



宗教への関心 (2010)





* 「現在、信仰をもっている」割合でみると、宗教系高校を卒業した回答者は非宗教系高校を卒業した回答者の平均の約1.8倍である。逆に「信仰をもっていないし、宗教にもまったく関心がない」割合は、非宗教系が宗教系の平均で約1.7倍である。

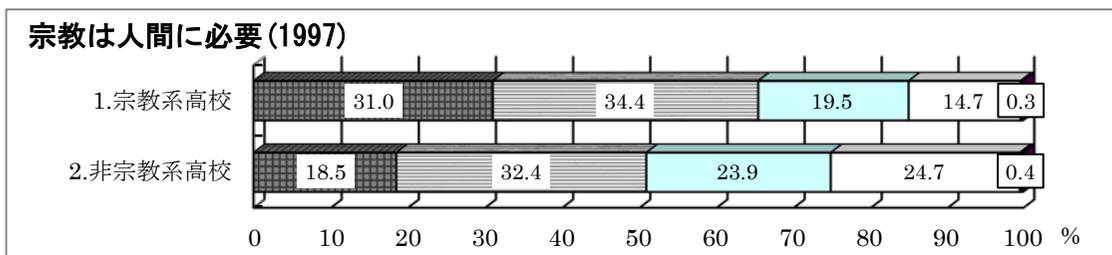
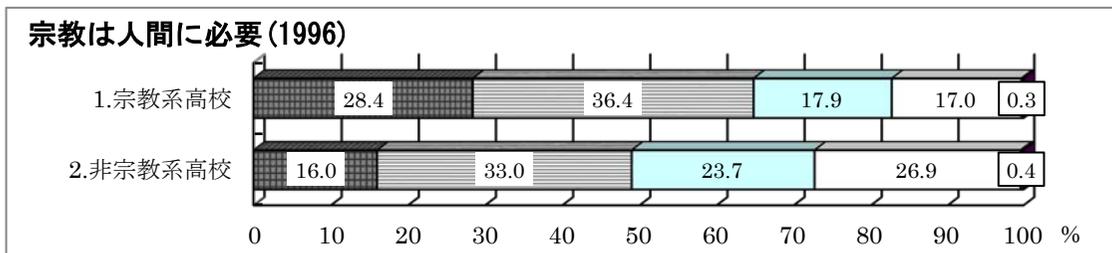
b) 宗教は人間に必要

質問内容

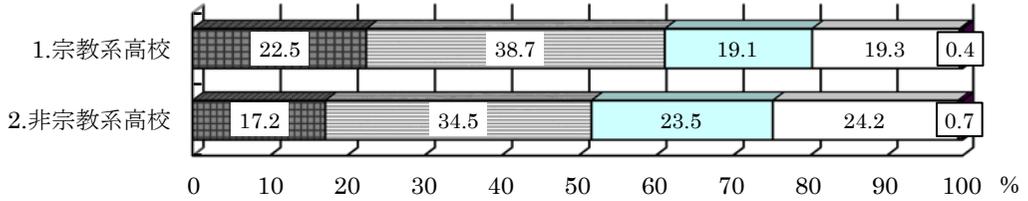
次のような意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

「どんなに科学が発達しても、宗教は人間に必要だ。」 []

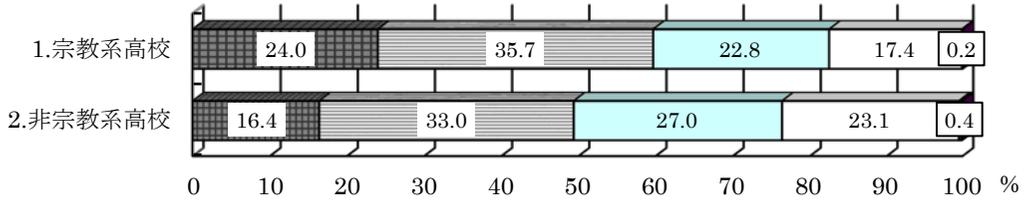
グラフ 15b1



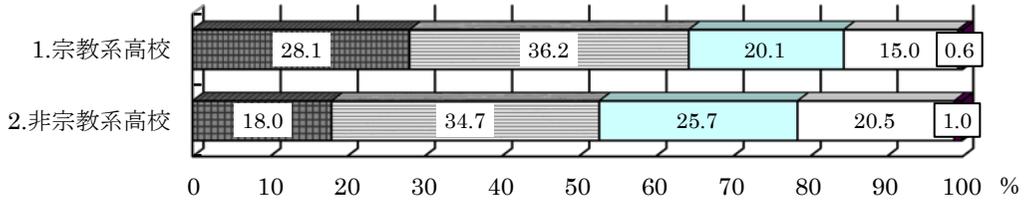
宗教は人間に必要(1998)



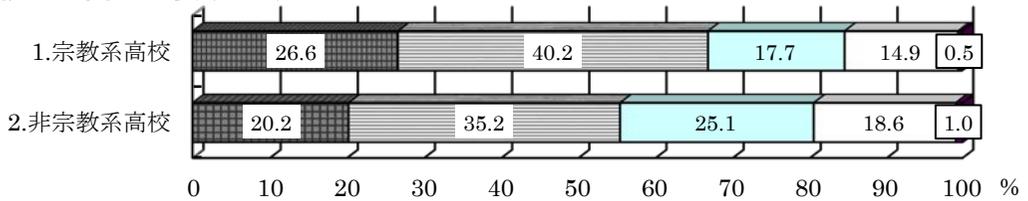
宗教は人間に必要(1999)



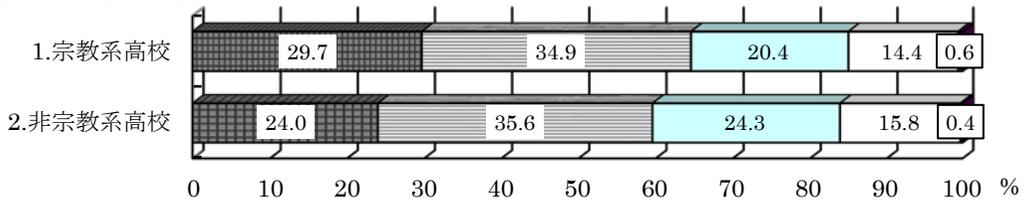
宗教は人間に必要(2000)



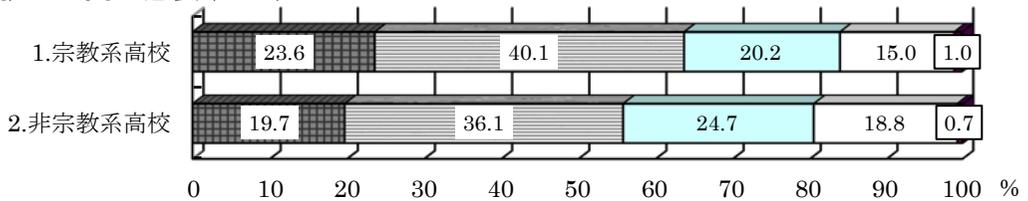
宗教は人間に必要(2005)



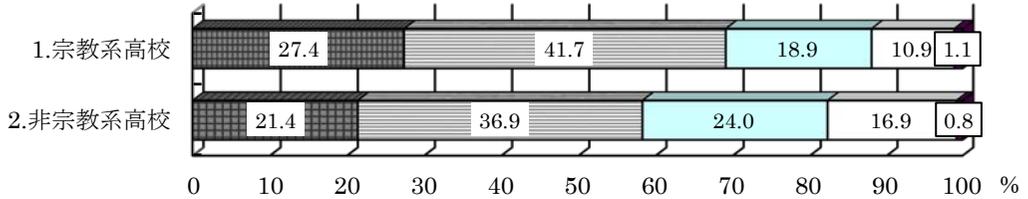
宗教は人間に必要(2007)



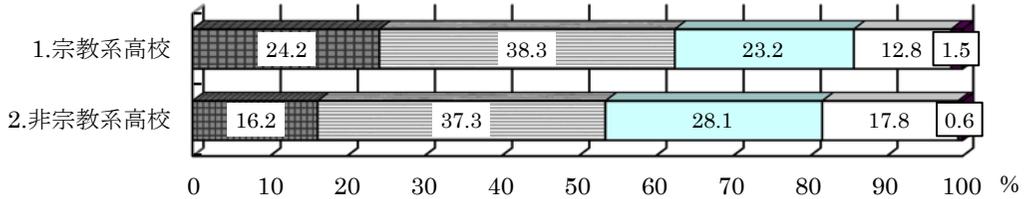
宗教は人間に必要(2010)



宗教は人間に必要(2012)



宗教は人間に必要(2015)



* 「どんなに科学が発達しても、宗教は人間に必要なだ」と思う割合は、宗教系高校を卒業した学生の方が非宗教系高校を卒業した学生に比べ、平均で約1.4倍多い。

c) 霊魂の存在

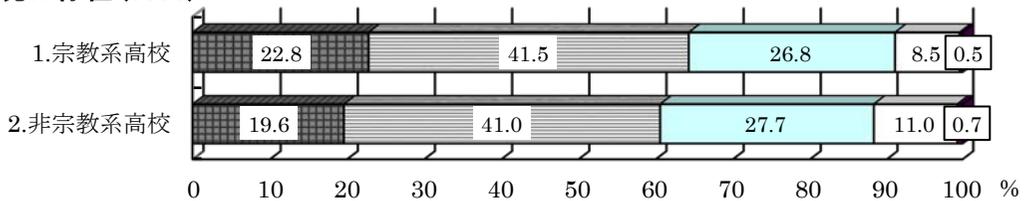
質問内容

神や仏の存在について、あなたはどのように思いますか。「1.信じる 2.ありうと思う 3.あまり信じない 4.否定する」のなかから、番号で答えて下さい。

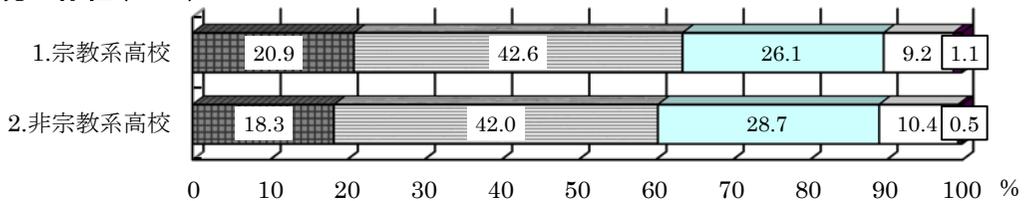
霊魂の存在[]

グラフ 15c1

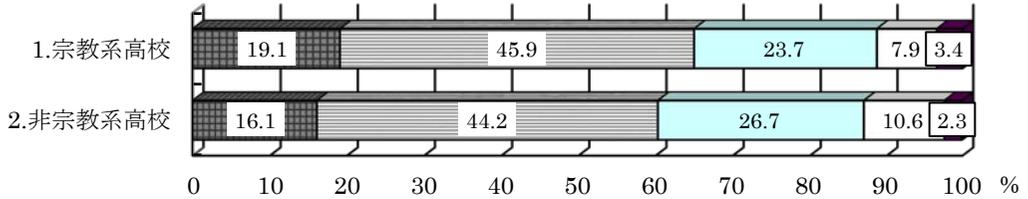
霊魂の存在(1999)



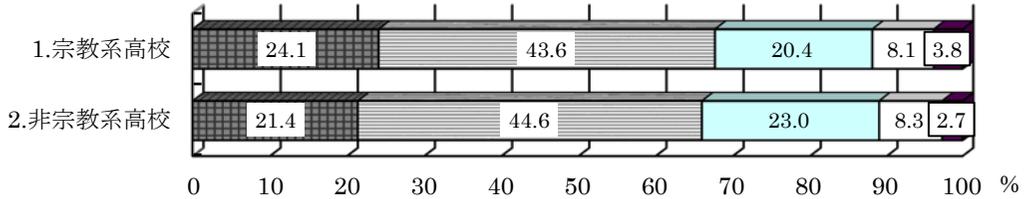
霊魂の存在(2000)



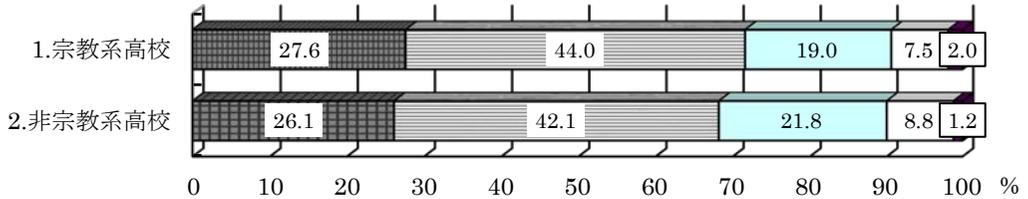
靈魂の存在 (2001)



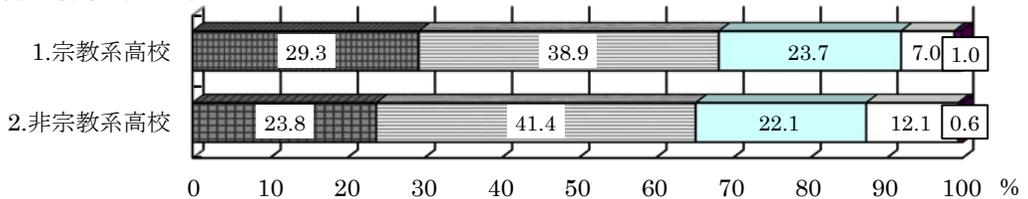
靈魂の存在 (2005)



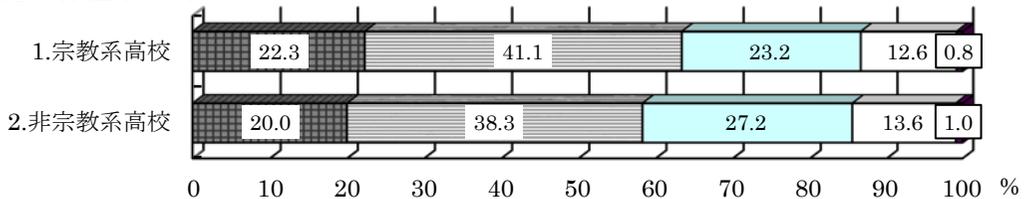
靈魂の存在 (2007)



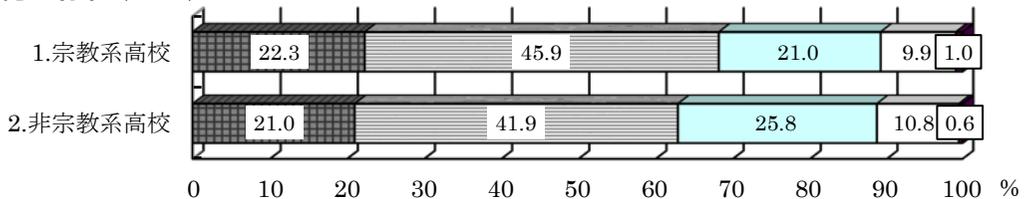
靈魂の存在 (2010)



靈魂の存在 (2012)



靈魂の存在 (2015)



* 霊魂の存在を信じるかどうかの割合は、宗教系高校と非宗教系高校での差が小さく、「信じる」という回答と比較すると、平均で宗教系高校が非宗教系の約1.1倍でしかない。

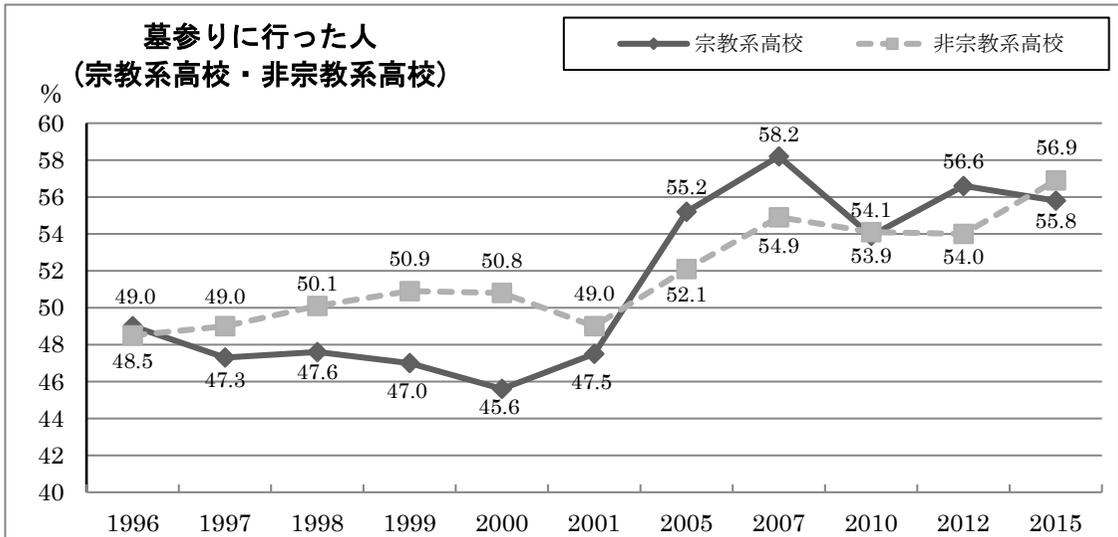
d) 墓参り

質問内容

あなたは去年のお盆の墓参りはどうしましたか。次のうちから選んで下さい。

1. 家族と行った
2. 行った家族もいるが自分では行かなかった
3. 家族とは別に自分だけで行った
4. 家族の誰も行かなかった
5. その他 []

グラフ 15d1



e) 占いの経験

占いについては質問形式がすべて統一されているわけではないので、同じ質問のもので比較する。

質問内容

(1996年)

次にあげた占いについて、やったことがあるものすべてに○をつけて下さい。

1. 学校や家などで友達と「こっくりさん」(または「エンゼルさん」「キューピットさん」)をやったことがある。
2. 血液型による性格判断などの本を買ったことがある。
3. 街頭や店でプロの占い師に手相、人相などを占ってもらったことがある。
4. 店などでプロの占い師にタロット占いをしてもらったことがある。
5. お金を払って、姓名判断をしてもらったことがある。
6. 店などでコンピュータ占いをしたことがある。
7. 星占いをするために定期的に読む本や雑誌がある。
8. 以上の他にお金を払ってやってもらった占いがある。[具体的に]

(1999年)

次にあげた占いについて、あなたがやったことのあるものすべてに○をつけて下さい。

1. 学校や家などで友達と「こっくりさん」(または「エンゼルさん」「キューピットさん」)をやったことがある。
2. 街頭や店でプロの占い師に手相、人相などを占ってもらったことがある。
3. 店などでプロの占い師にタロット占いをしてもらったことがある。

4. 星占いをするために定期的に読む本や雑誌がある。
5. 一日の運勢をみるために定期的にみるテレビ番組がある。
6. 神社・仏閣のおみくじをひいたことがある。
7. 店などでコンピューター占いをしたことがある。
8. インターネット上の有料の占いをしたことがある。

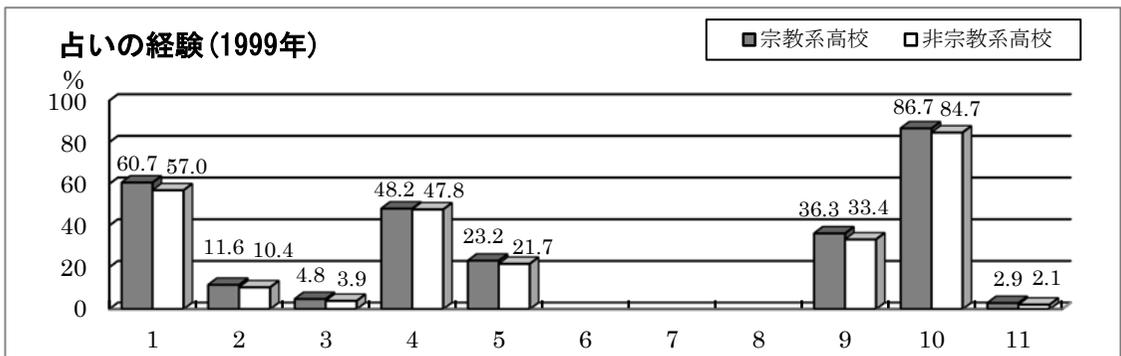
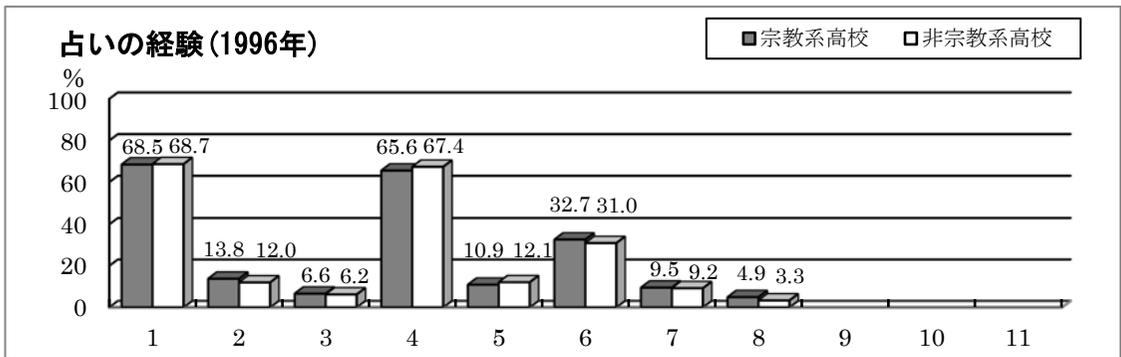
<宗教系高校>

<非宗教系高校>

表 15e1

	1996	1999		1996	1999
1.こっくりさん	68.5	60.7	1.こっくりさん	68.7	57.0
2.手相、人相	13.8	11.6	2.手相、人相	12.0	10.4
3.タロット	6.6	4.8	3.タロット	6.2	3.9
4.コンピュータ占い	65.6	48.2	4.コンピュータ占い	67.4	47.8
5.星占い	10.9	23.2	5.星占い	12.1	21.7
6.血液型性格判断	32.7	—	6.血液型性格判断	31.0	—
7.姓名判断	9.5	—	7.姓名判断	9.2	—
8.その他	4.9	—	8.その他	3.3	—
9.テレビ番組	—	36.3	9.テレビ番組	—	33.4
10.神社仏閣のおみくじ	—	86.7	10.神社仏閣のおみくじ	—	84.7
11.インターネット上の有料の占い	—	2.9	11.インターネット上の有料の占い	—	2.1

グラフ 15e1



第16章 学年別との相関

回答者は大半が大学の1年生から4年生までであるが、留年して5年以上在学している人や大学院生も若干含まれている。ここでは大学1年生～4年生の学年別をいくつかの質問項目とクロスさせて相関がどの程度あるか調べた。これは大学に在籍していることで変わっていく意見や行動があるかについての参考となるデータとすることを目的としている。

学年別の回答者数では各調査とも1年生がもっとも多い。具体的な数値は「調査の概要」の「6. 回答者の学年」に一覧表を掲げておいた。2001年の35.2%を除いた11回の調査において、1年生が占める割合は40～50%である。学年があがるにつれて割合が下がり、4年生では10%未満になる。しかし4年生の人数がもっとも少ない1998年でも230人が回答しており、比較も意味があると考ええる。

学年別とのクロス集計の対象とした質問項目は、宗教の勧誘に関することから、霊魂の存在、死後の世界という宗教観、勧誘の経験、宗教についての意見、宗教教育についての意見である。

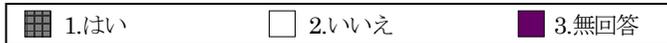
a) 宗教の勧誘の経験

2000年と2005年には宗教の勧誘を受けた経験に関する質問をした。当然のことながら、学年があがるにつれて経験した割合が増えている。

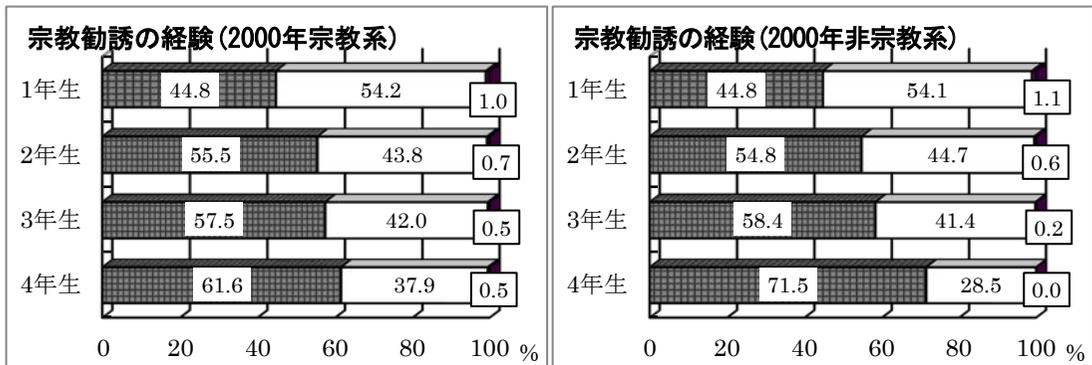
質問内容

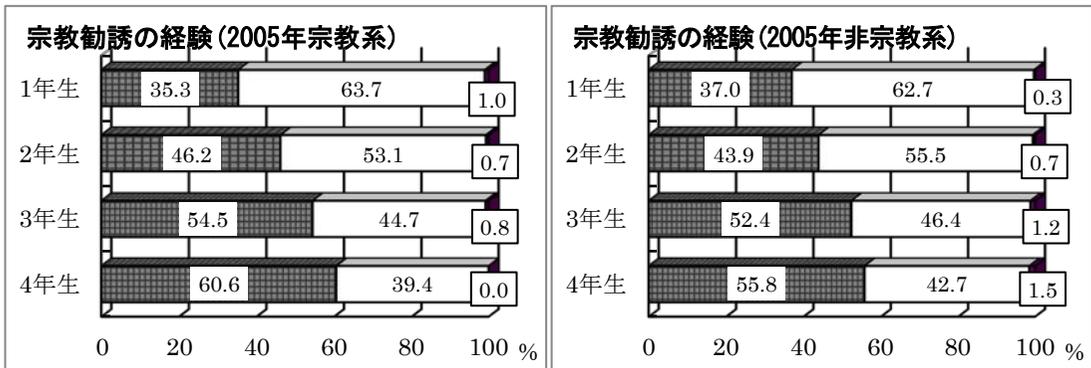
あなたは見知らぬ人から宗教の勧誘を受けたことがありますか。 1.はい 2.いいえ

回答の選択肢



グラフ 16a1





b) 宗教は人間に必要なか

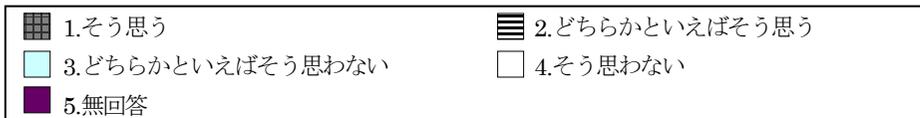
経年比較で示した通り、宗教の必要性については2001年を除く11回の調査で質問している。これについての学年別の変化を見ることで、大学における教育の影響を推測できる。1年生の場合は、ほぼ高校までの経験に基づいて答えていることになるが、4年生の場合は大学での経験が少なくとも3年は加わっていることになる。

質問内容

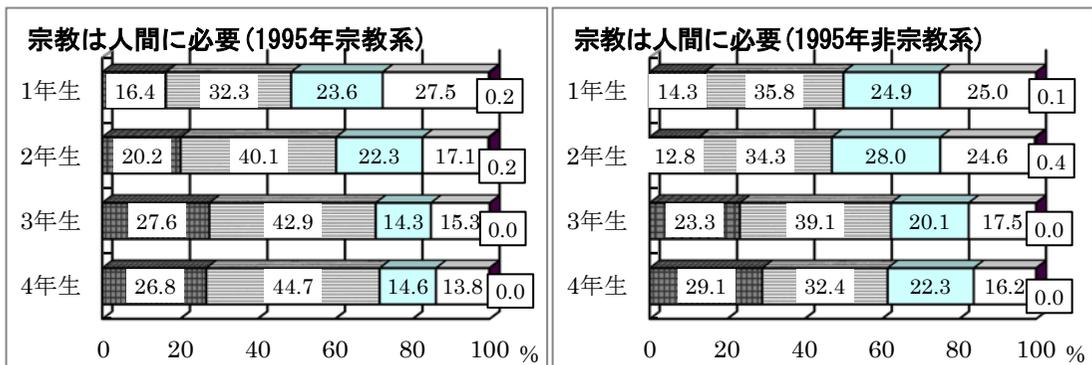
次のような意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

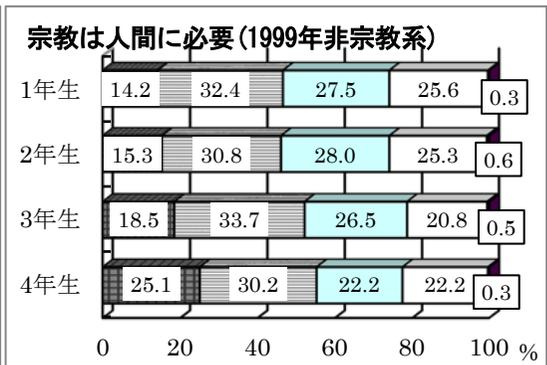
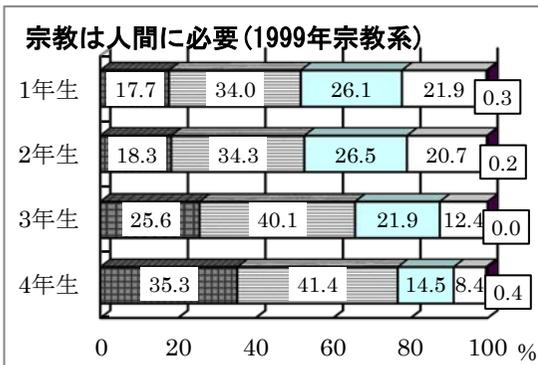
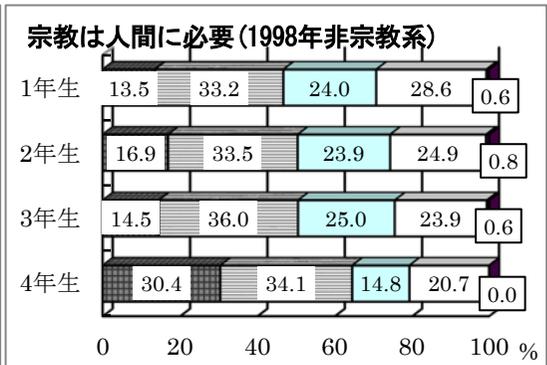
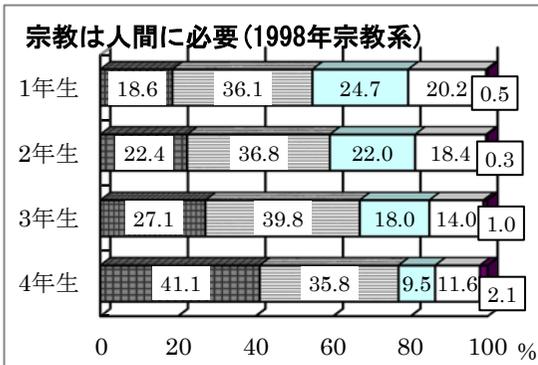
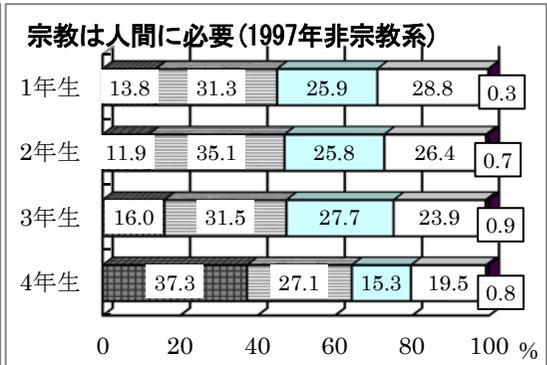
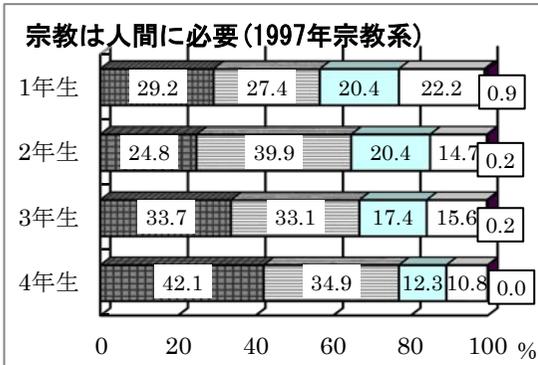
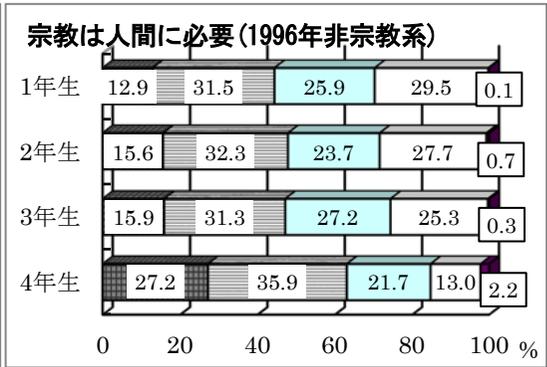
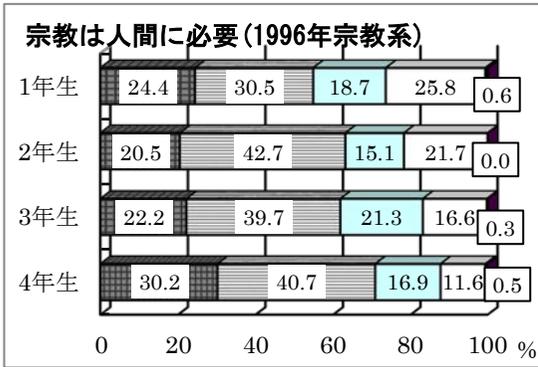
「どんなに科学が発達しても、宗教は人間に必要なだ。」 []

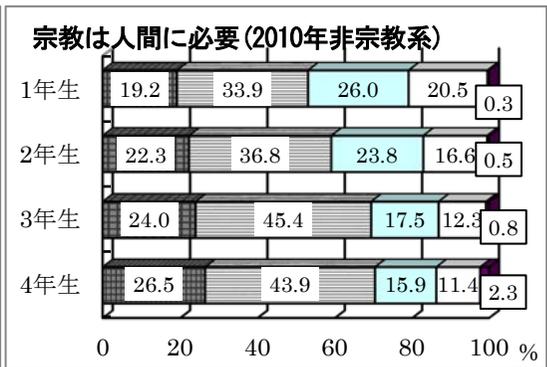
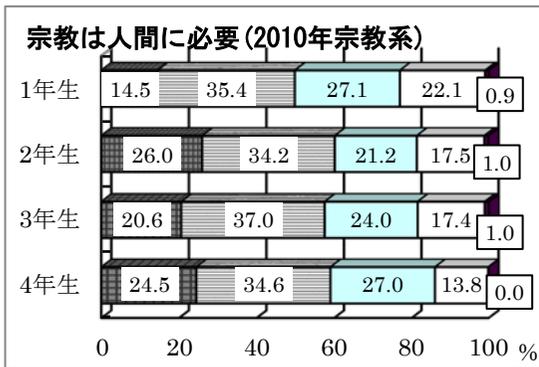
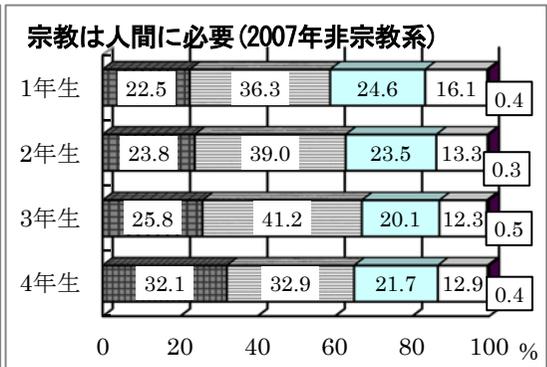
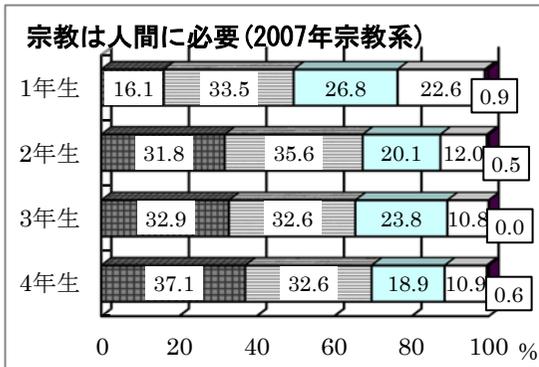
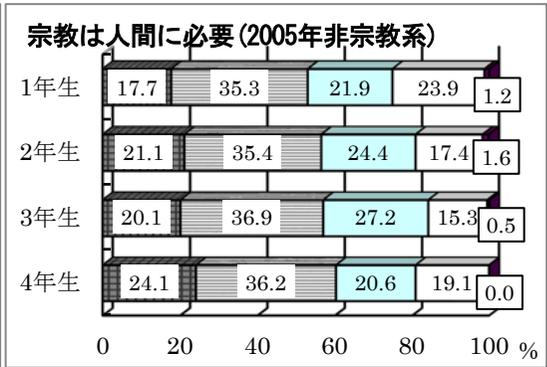
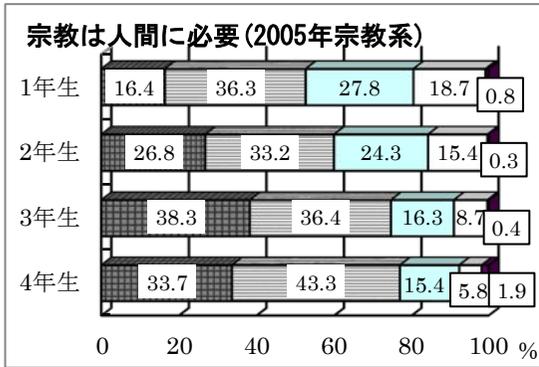
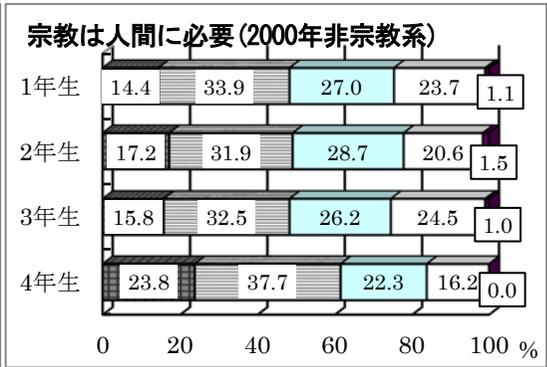
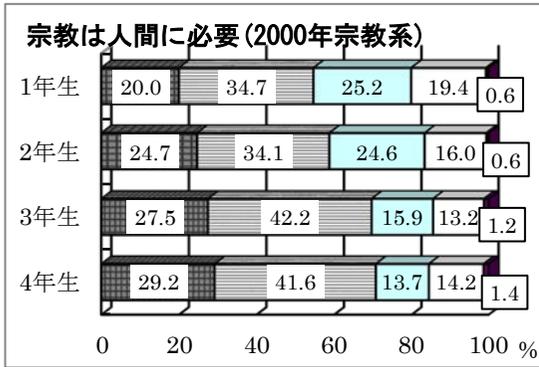
回答の選択肢

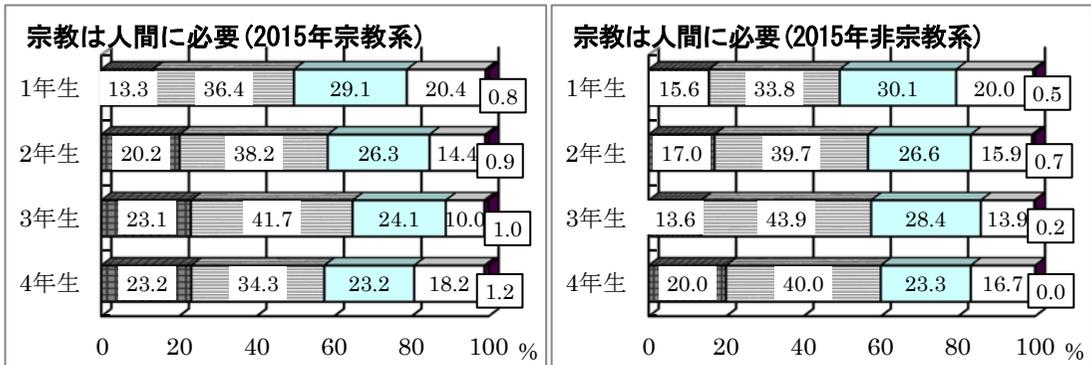
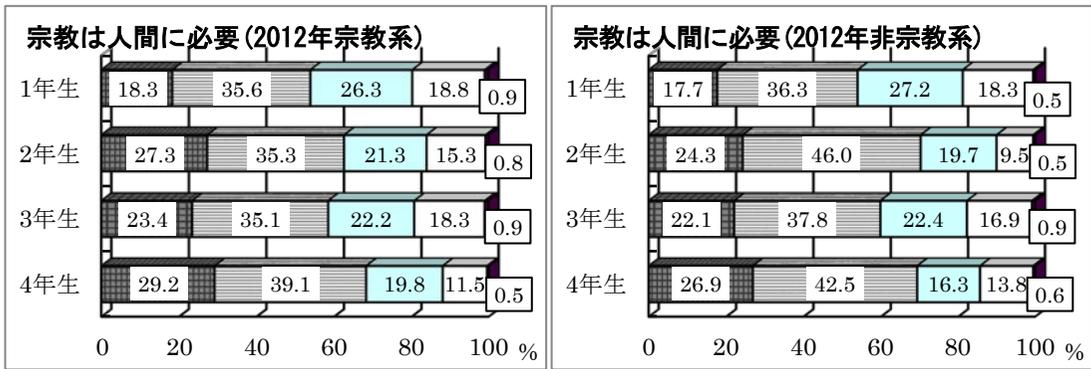


グラフ 16b1









* 学年を経るごとに、「科学が発達しても宗教は人間に必要」と思う割合は少しずつ増加の傾向にある。学年が上がるとともに、この間に対し肯定的回答をする割合が高くなるが、例外的な年もある。ただし3年生、4年生となると回答者の絶対数が少なくなるので、誤差も大きくなる。

c) 宗教はアブナイと思うか

宗教をネガティブにとらえる割合については、1998年以降、7回の調査で質問している。これが大学生活の中でどう変化したかを見る上での参考にするためにクロス集計である。

質問内容

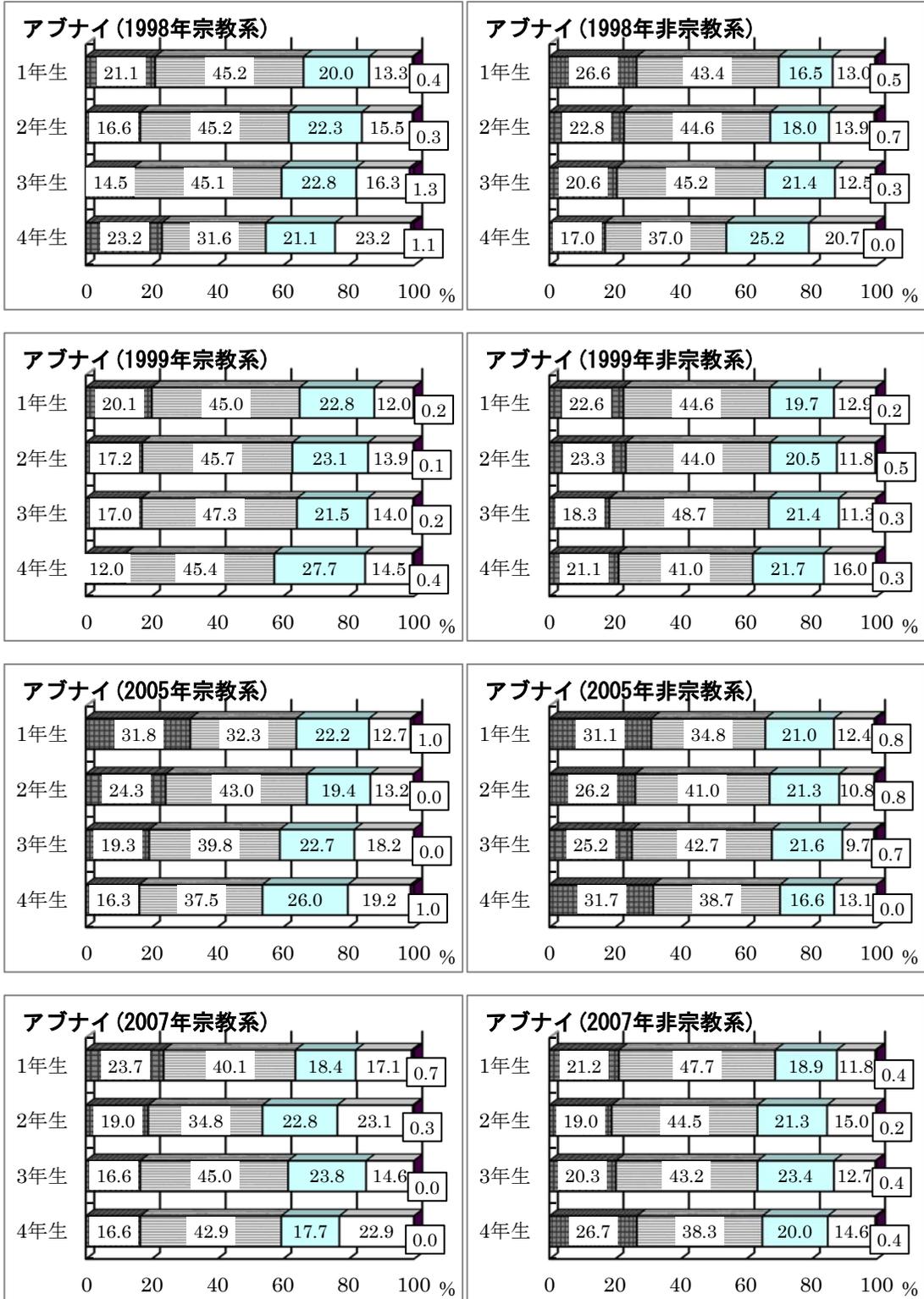
次のような意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

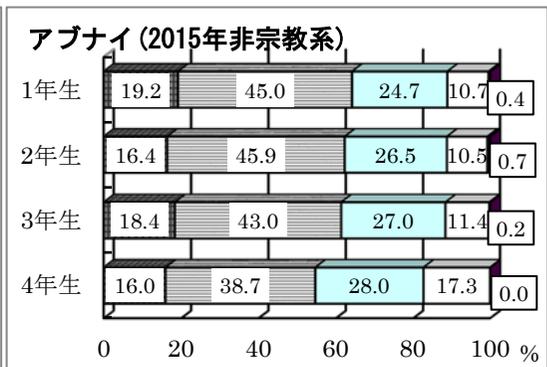
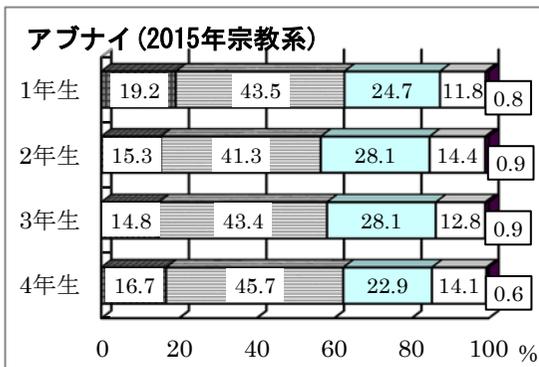
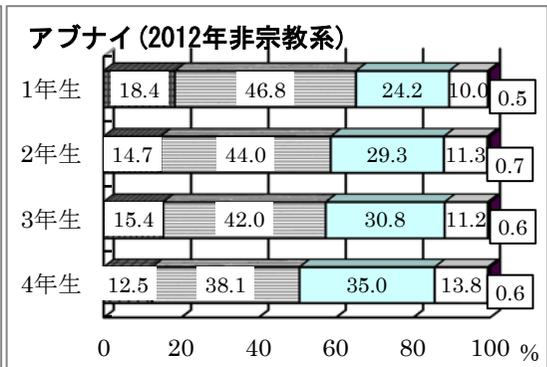
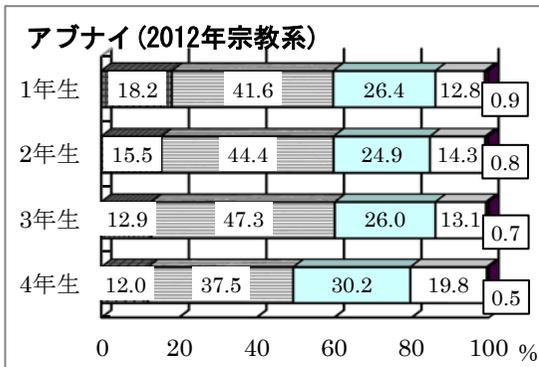
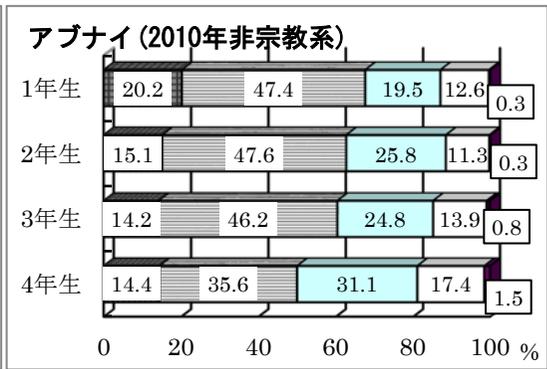
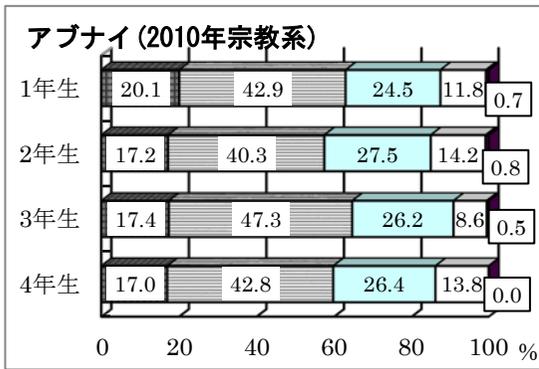
「一般的に宗教は、アブナイというイメージがある」 []

回答の選択肢

	1.そう思う		2.どちらかといえばそう思う
	3.どちらかといえばそう思わない		4.そう思わない
	5.無回答		

グラフ 16c1





* 1990年代後半は学年があがることと「宗教はアブナイと思う」こととの間の相関は弱いですが、2005年以降の調査では、学年があがると「宗教はアブナイと思う」割合が減る傾向にある。誤差の範囲かもしれないが、一応参考にすべき変化と考えられる。

d) 高校までの宗教教育をどう思うか

宗教教育に関する質問は回答の選択肢が途中で2度変わったので、データが3種類ある。選択肢が変わったことの影響は大きく、これは韓国でも同様であった(日韓比較を参照)。回答の選択肢を変えたことが、学年別でどう違いがあらわれるかを調べた。

質問内容

次のような意見について、「1.そう思う 2.どちらかといえばそう思う 3.どちらかといえばそう思わない 4.そう思わない」のいずれかの番号で答えて下さい。

(1996~1999年)

「高校までにもっと宗教についての基礎知識を教えるべきだ」

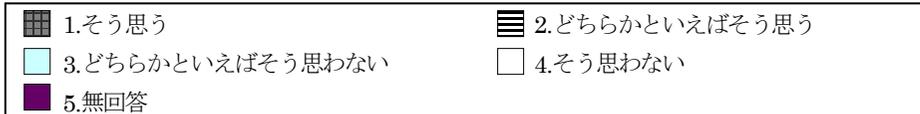
(2005年)

「高校までにもっと世界の宗教についての基礎知識を教えるべきだ」

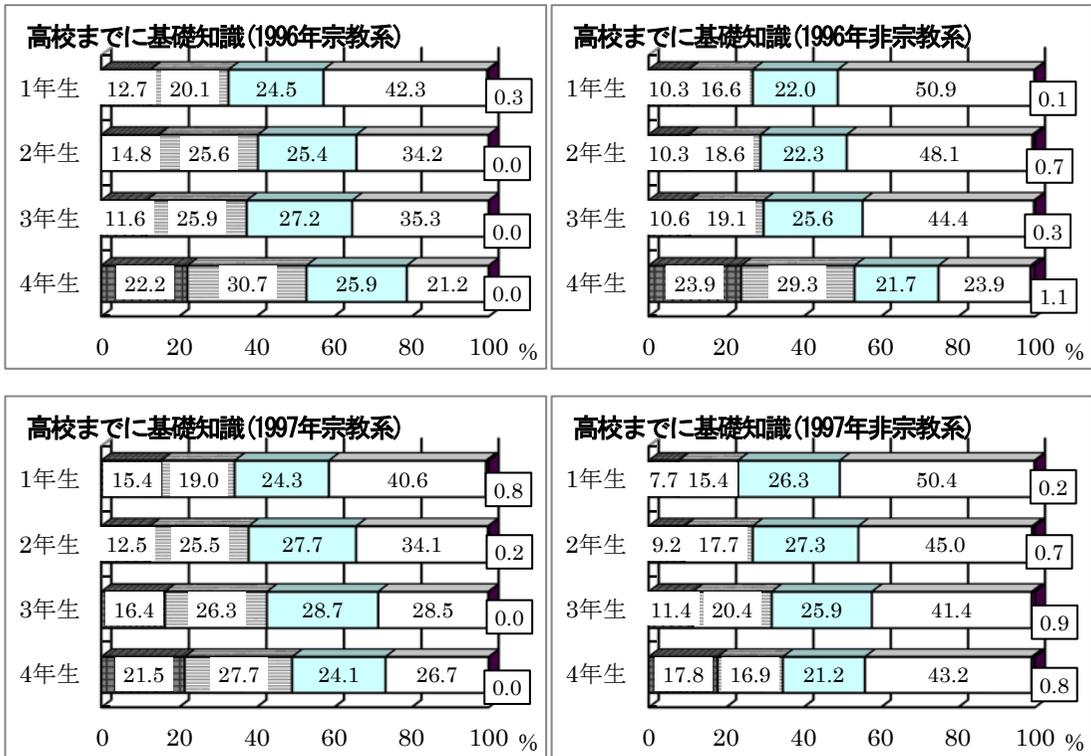
(2007~2015年)

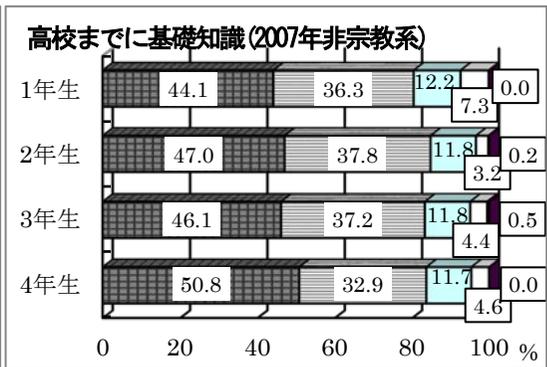
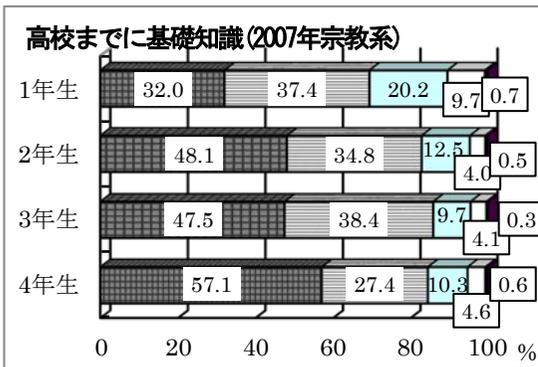
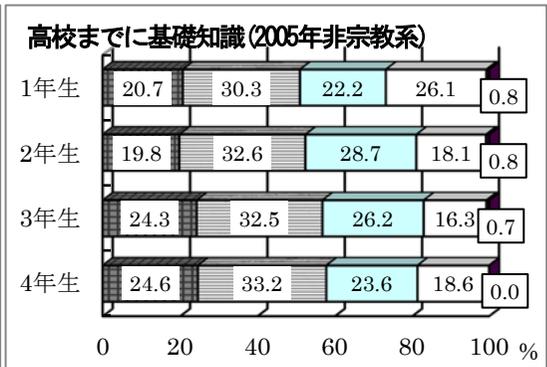
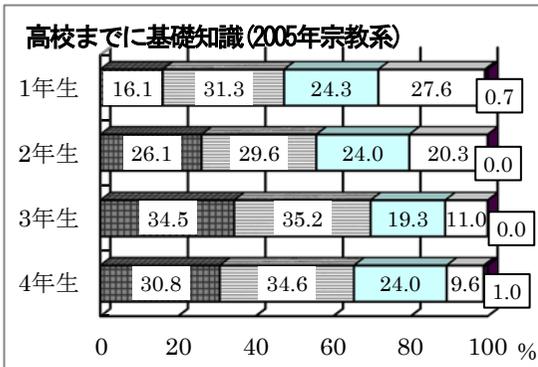
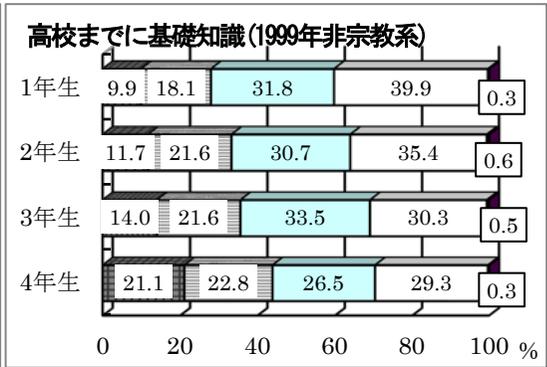
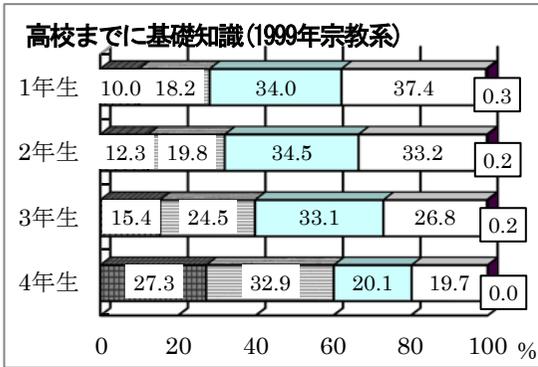
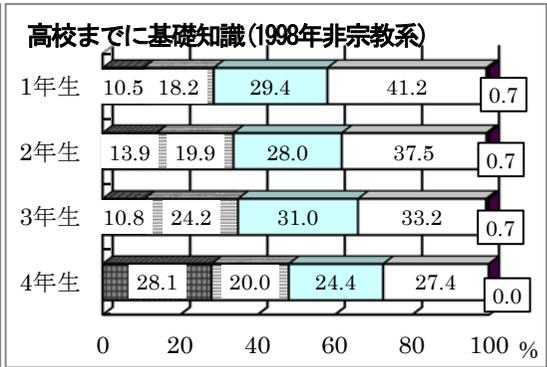
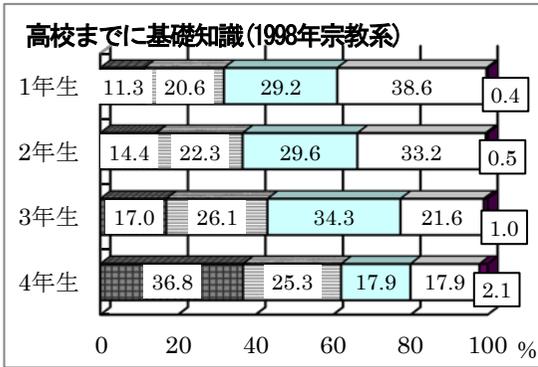
「高校までに日本や世界の宗教文化についての基礎的な知識を学んだ方がいい」

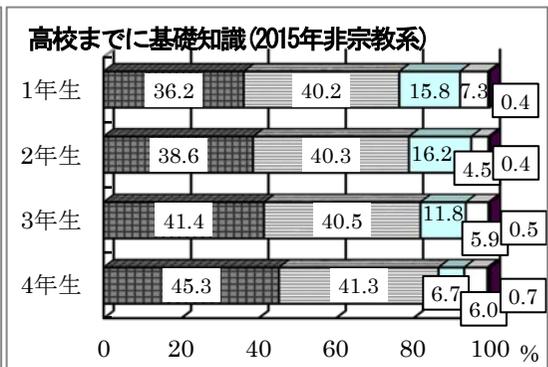
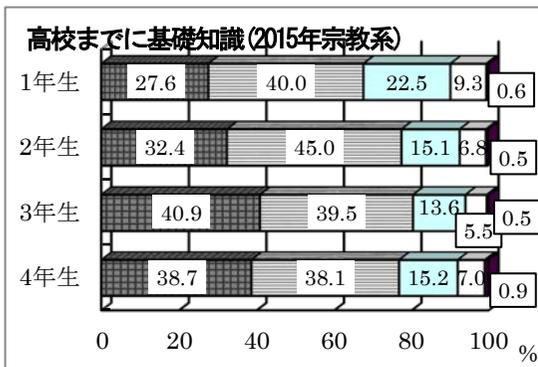
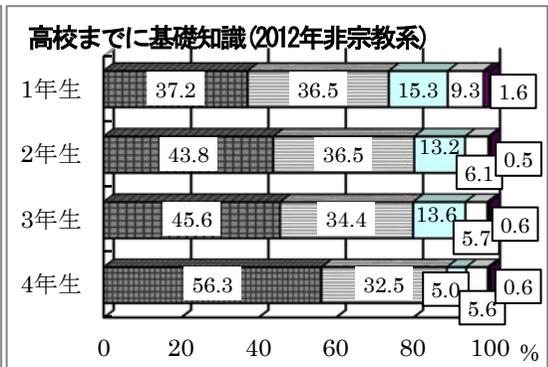
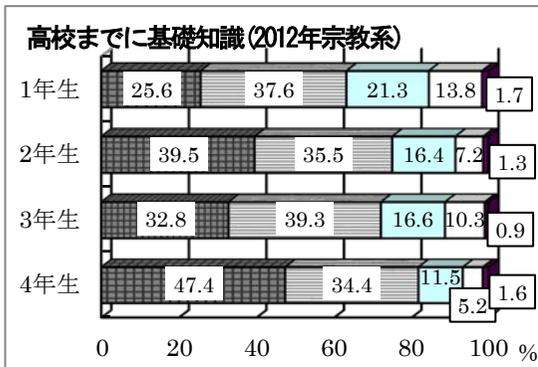
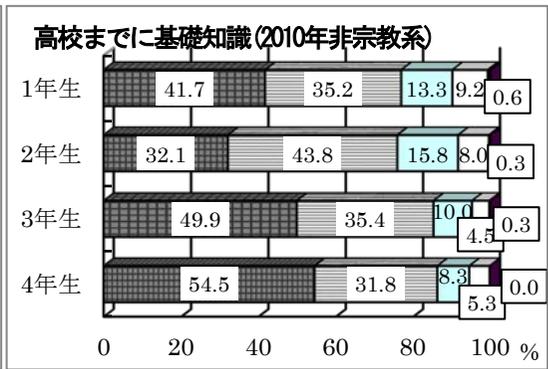
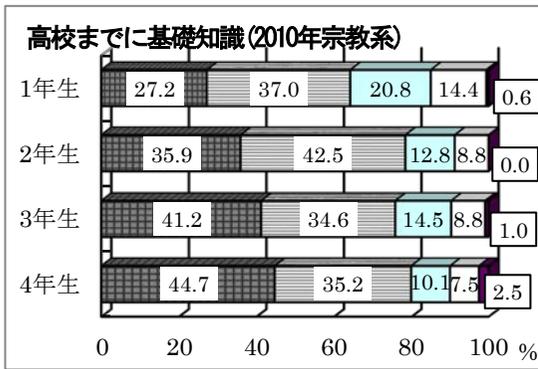
回答の選択肢



グラフ 16d1







* どの学年においても、回答の選択肢を変えたことが、それぞれの回答の割合の違いとしてあらわれている。

e) 霊魂の存在

霊魂の存在を信じるかどうかは、宗教系と非宗教系で差があまり大きくなく、また信仰をもつかどうかでもあまり大きくない。では学年別にみるとどうであるか。大学での経験は影響するのであろうか。宗教系の大学では学年を経るごとに宗教関連の講義を多く受講している可能性が高いと推測される。そのことが影響を与えているかどうかである。

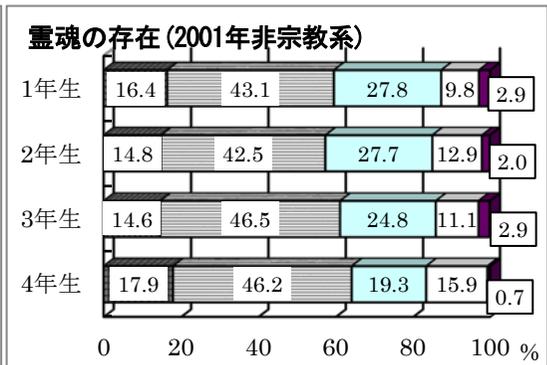
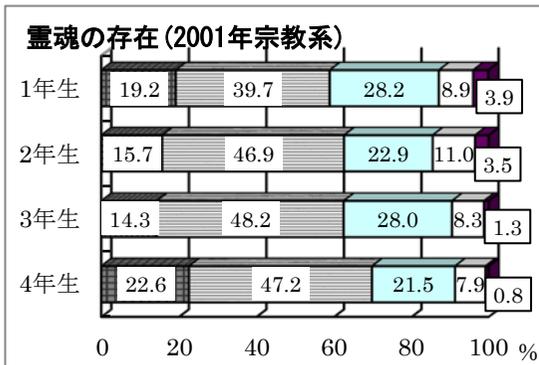
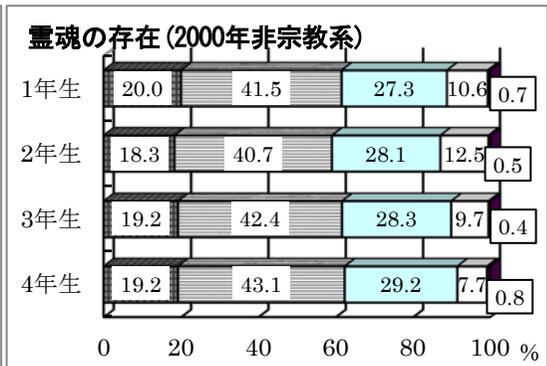
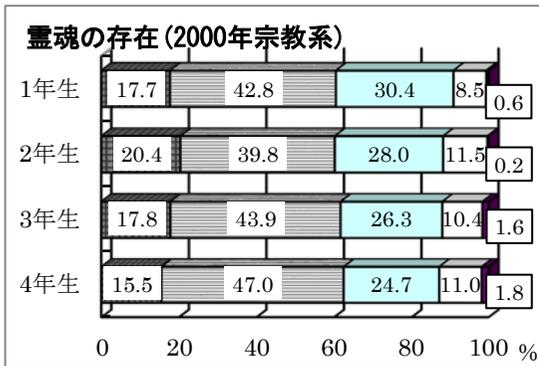
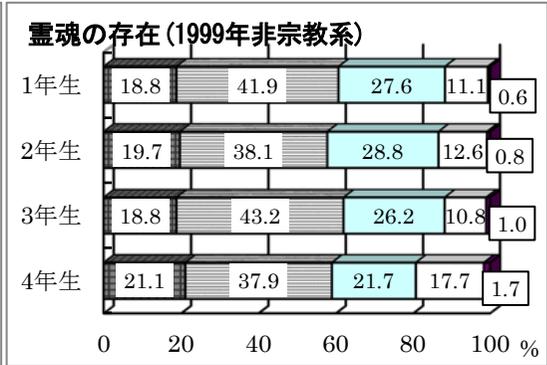
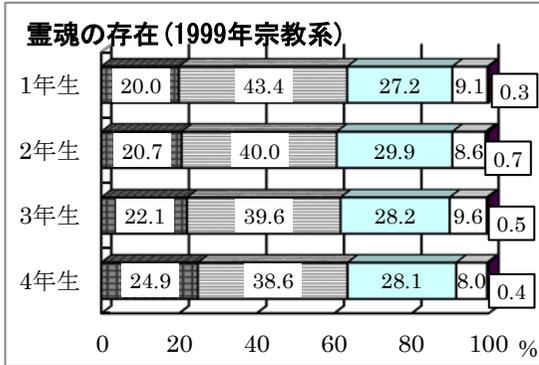
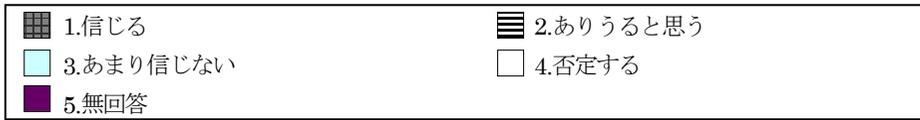
質問内容

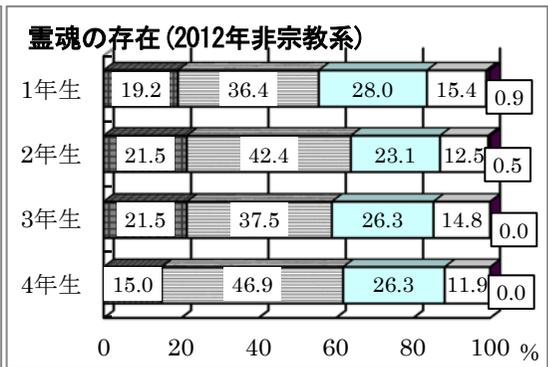
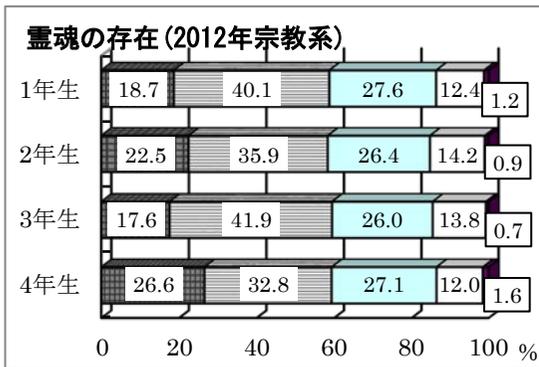
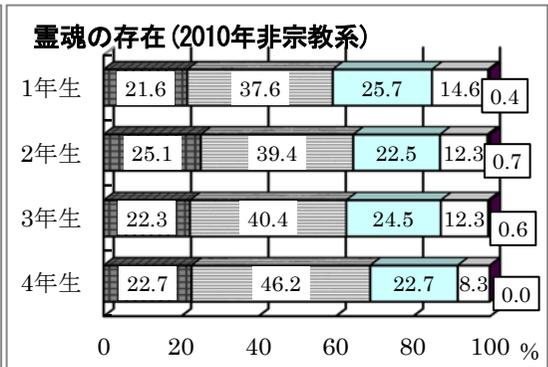
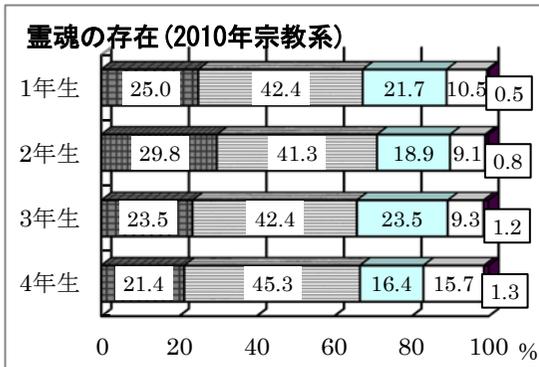
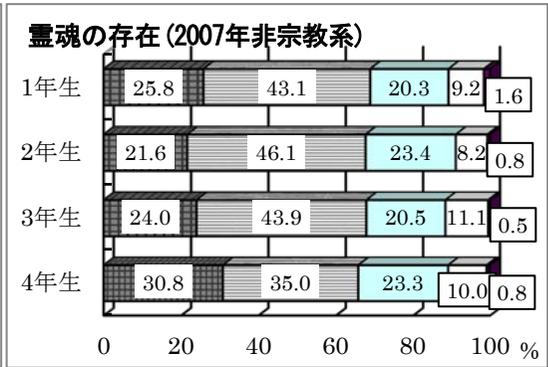
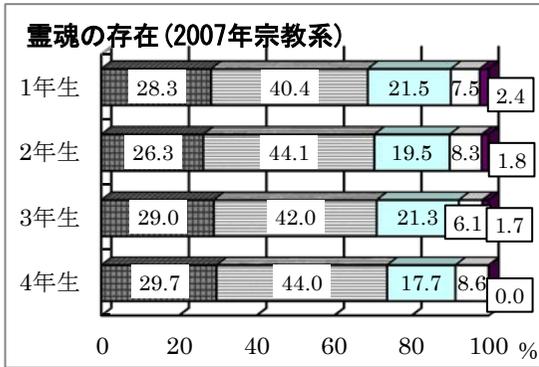
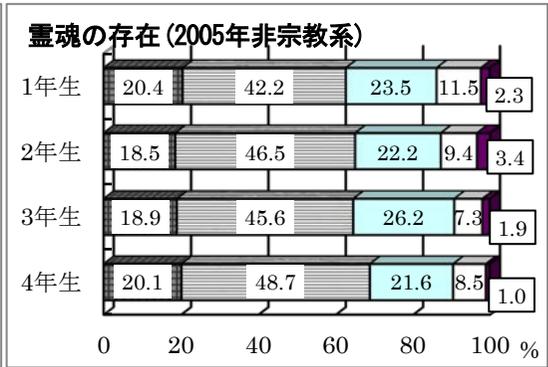
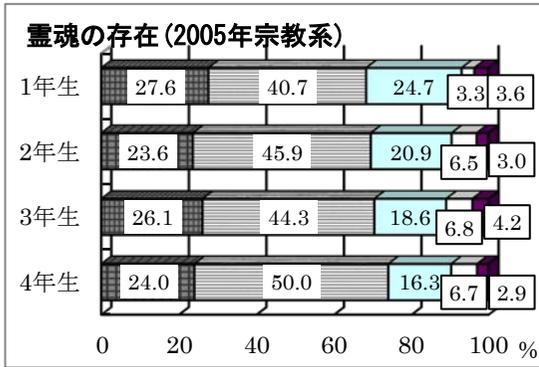
神や仏の存在について、あなたはどのように思いますか。「1.信じる 2.ありうと思う 3.あまり信じない 4.否定する」のなかから、番号で答えて下さい。

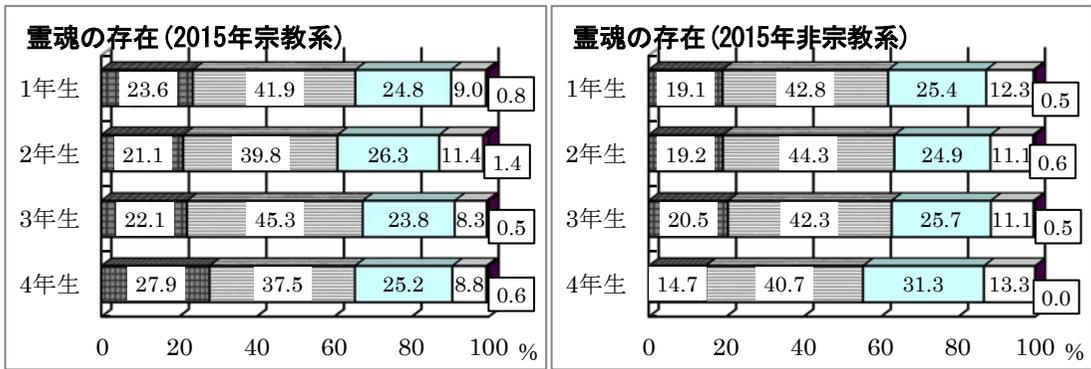
霊魂の存在[]

グラフ 16e1

回答の選択肢







*いずれの年においても、学年別に何らかの傾向が生じているようには見えない。つまりこうした観念は大学入学時点である程度かたまっており、大学の教育もそれに大きな影響を与えていないのではないか、という推測が生じる。